
樋口葉子の日常

しゅう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

樋口葉子の日常

【Nコード】

N6157U

【作者名】

しゅう

【あらすじ】

22歳。高校教師。処女。樋口葉子は自己紹介が苦手だ。

はじめからはじまり

今日でちょうど三カ月になる。立ちっぱなしでむくんだ足をさすりつつ葉子は気づいた。どおりで「先生」なんて呼ばれても最近はあまり面喰わなくて済むんだ。

電車が揺れて、正面で居眠りしていた中年男が驚いたように顔をあげた。その顔を直視しないように慎重に視線を外すと、窓の外に墨汁を注いだみたいに真っ黒い森が見えた。新宿の街はこの時間にならって屋外で本が読めるくらい明るかったのに。葉子は数か月前、女子大生だった自分のことがもうよく思い出せない。楽しかったのか、つらかったのか、いろいろあったはずなのに就職活動しかしてこなかった気がする。

いま葉子は地元の出来の悪い私立高校で常勤講師をしている。常勤講師とは、正規雇用ではないにもかかわらず学年業務や、部活動や、ヘタをすると担任まで持たせられる教員のことだ。最低限の給料で、ボーナスもなければもちろん残業にも休日出勤にも手当てはつかない。毎日朝の七時半に学校につき毎日九時近くまで家に帰れない。でも葉子にはほかに行けるところがなかったし、大学に残って就活をすることは親が許さなかった。

七月五日（前書き）

暑い。

七月五日

期末考査の二日目。朝から調子が悪くて（身体の健康状態のことではない）手提げ袋に突っ込んだ袋から豆菓子をつかんでばりばり噛み砕きながら電車に乗っていた。塩のついた手をどうしようかと考えながら歩いていたら先輩教諭の田淵がおはようございまーす、と言いながら菓子を追い抜いて行った。菓子を食べながら歩いていたら自分に今更ながら恥ずかしくなって、挨拶を返す声はやや裏返った。ふと前を見ると菓子と同期の上村が歩いていて、田淵に気がつくくと頭を下げた。二人は親しい友人同士のように並んで話しながら歩いて行く。

自分にはああいうことはできない。

みつともないのが分かっていても菓子を口に運ぶては止まらなかつた。胃も限界だし顎も痛いし、これ以上カロリーをとるなんてとんでもないのにどうにもならない。暑さのせいばかりでなく、校門をくぐるころには菓子はからだじゅうがじっとり汗ばんでいた。

職員室に入るとすつと空気が涼しい。挨拶をしながら席につき、さりげなく見渡す。阿部の姿がないのにほつとして、考査問題をとりに教務用ロッカーに向かった。昨日は出勤したらずで監督の教師の机に一日分の考査問題がおかれてしまっていた。専用の袋に入れてからロッカーに提出された考査問題を監督の先生に配って歩くのは菓子の仕事なのに上司にやられてしまつてはなんとというか非常にまずい。学校は他の業種に比べて縦関係が薄い。またそうでなければならぬものとされている。でもやっぱりそれは真に受けてはいけない建前だし、分かりづらい暗黙のルールはたくさんある。

菓子は22年間かけて自分がただでさえ人の輪から外れやすい人間だとうやく認め、その危険性にも気がついた。だからそういうものにはことさら敏感でありたいと思うのだが、奈何せん、上手くいかない。

半日はあつという間に過ぎて、昼になった。担当教科のテストが返ってきたのでマルつけをしていると、鈴木がメモボードを手に横に立った

「先生、この日部活の大会あるんで、不参加です」

「そうでしたっけ。すみません、ありがとうございます」

そうでしたっけ、といったあとで葉子は以前その時期に大会があると知らされていたことを思い出した。なんでわざわざ『忘れてましたアピール』しちゃってるんだろう。

「あ、そうだ。鈴木先生、今週の土曜って練習ありますか？」

「ありますよ」ああ。あるんだ。

葉子は今週末オールでカラオケに行く予定だった。六時から翌五時まで、アルコール飲み放題がついて三千円というお得なコースだ。「午前ですか？午後ですか？あたしできたら午前のほうがいいかなー、なんて・・・」

「・・・バレーとバスケにもよりますけど・・・午前ですね」

いった瞬間また後悔した。これでは部活が自分の都合の妨げになると言っているようなものではないか。

「そうですか。ありがとうございます」

部活いやだ部活いやだ部活いやだというのがもうたぶん全身からオーラになって飛んでいるんだろう。そうだよわたしは働くのなんか嫌いだし汗かくのも苦労するのも大っきらいなんだよ。こんな仕事辞めて新宿とか池袋に戻りたい。ちよつと服買ったり過食用食材買うくらいのお金なら何の苦労もなく調達できる環境に戻りたいんだよ。ああああああでも正社員にならないとだし、事務も営業もできそうにないしでもこんなじゃ正採用されるかどうかなんかわからない。そのための努力を何とかするふりをするこすらいやでいやでしかたがない。このついさつきだつて業務時間中に携帯をいじっていたところを主任に話しかけられてしまった。しかもその内容はむしろ自分のほうから伺いを立てなければならぬ類のものだった。気が利かない、サボりたがり、仕事はミスばかり、知識な

らあるのかという別と別にそういうわけでもない。教育実習生よりたちがるい。そしてなにより周りの輪に溶け込めない。

三時を過ぎるとみんな中学校訪問やら下校指導やらで学年の先生はいなくなってしまった。他の学年は人数は少ないもののデスクに人がいるのに二年生だけガラガラだ。

周りの談笑を聞きながらペンを動かしていると急に猛烈な孤独と焦りを感じた。

給湯室まわりの掃除もひとりきりでやった。ゴミ袋を二つ抱えて、足で扉を開けたのを教頭に見られた。教頭は何とも言えない顔をして

「大丈夫樋口さん」

「大丈夫です、すみません」

ゴミ置き場は雑然としていて、ジュースのペットボトルを入れたポリ袋の表面には普通より一回り大きく黒々としたあたりが多数這いまわっていた。考査中だからかサッカー部の声も聞こえない。まだ夏の日は明るい。静かで、うだるように暑かった。

定時になるのを待つて葉子はこそそと逃げるように帰った。帰り際下田と岡本が連れだつて帰るのに会った。下田は自分と同じ電車を使っているのでもしかしたら先を歩いているかもしれないと思つたが、ほんの数分しかたつていないのに学校の前の長い一本道には誰の姿もなかった。岡本の車で帰つたんだらうな、と思つた。

職員室の窓から笑い声が聞こえてくるような気がする。結局私は昔から何一つ変われない。じつとりと夏の暑さが染みてくる。駅までの道を歩きながら葉子はいままで、ありとあらゆる思い出したくな事柄をつぎつぎと思いだし、叫びだしたくなりそう衝動をこらえていた。

いつだつてここではないどこかへ行きたくて逃げたくて仕方なかった。ここが淵なのか、とおもつたら無性にやりきれなくなつた。自分の人生とは何か、なんて中学生見たいな感情があとからあとからあふれ出てやまない。

帰りにピノの抹茶味を買つて帰った。まだ火曜日か。一生かかっ

ても休日^が来^{ない}よ^{うな}気^がし^てき^た。

七月六日

監督表のミスで出勤していない教員が監督になっていたせいでテスト袋が行方不明になった。でもチエツク表にもテスト袋の表にも同じことが書いてあつたら信用しちゃう、と葉子は思う。その先生が出張だなんて知らなかったし。

「すみませんでした」

「いいよ、みつかったなら」

小走りで駆けていく小川を見ながら葉子はなんとなく腑に落ちない思いがしていた。

テスト監督は確かに退屈だが、楽だ。50分なんてあつという間に過ぎる。座つてはいけけないのがつらいが、座つたら座つたで眠気に耐えられそうにないので逆に助かつていた。

午後から下校指導と中学校訪問で学年主任と二人行動だ。20分に出るといわれて20分に職員室に戻つたら主任の姿はすでになく持っていくためのパンフレットなどの袋もない。慌ててカバンをひつつかみ外へ出ると主任はすでに玄関の前に車をつけていた。馬鹿か私は。20分に出るつて言つたら20分に学校を出ることだろうに。慌てて謝つて車に乗つた。

正直、緊張するしなにを話しても落ち着かない。昼食も相手の食べるのに合わせていたら少しも食べた気がしなかった。こんなのに1000円近く払つて、余分なカロリーを取つて馬鹿みたいだと思ふ。営業職じゃなくてよかった。

葉子は人とモノを食べるのが苦手だ。人と比べて明らかに食べるのが遅いし、食べているところを見られるのがものすごく嫌だからだ。でもくちに入れる量はほんの少しにしないと噛んでいるのか味わっているのかまるでわからないからすこしずつすこしずつ食べたい。大口にいっぱい詰め込んで口を動かすと顔が崩れて不細工がさらに不細工になるから絶対いやだ。よく仲良くなる手段として「

食事」が用いられることがあるが、あの神経はさっぱり理解できない。食事はひとりきりで誰からも見られずこっそりゆっくり食べるのが一番いい。他人に見られながらいい料理を食べるより、一人きりで卵ごはんでも食べていたほうがよっぽど幸せだ。まあとにかく今日の葉子の昼食は金のむだなばかりではなく、体に脂肪を蓄えて醜くなるだけものだったのだ。

六時過ぎ、近くの駅で降りてもらってから葉子はアイスクリームを一つとゆで卵を三つと、かき氷を一杯、ビスケットを5枚、豆乳をコップに二杯。合わせて700キロからリー近くをもちっ込んでしまった。先週と比べて2キロも太った。もう嘔吐を解禁してしまいたい。週末にカラオケに行くからと控えていたが、これ以上太ったら頭がおかしくなりそうだ。

買おうと駅ビルを上から下まで見て回るがどれもこれも高いような気がして手が出ない。過食には3000円でも5000円でもぼーいとかえてしまうのに1000円のキャミソールすら手が震えて買えない。鏡に映る自分の顔が鼻がでかくて気持ち悪い。ゴリラが服を着ているようだ。いらいらいらいらしてくる。二人からそれぞれ約束の時間に遅れると連絡があった。どうせそうだと思っていた。いつもこいつら人を待たせるんだ。会ってから、なぜかうどんをたべ、カラオケに行くがフリータイムにはあと40分たたなければ入れないという。仕方がないので近くのロフトへ行く。ひろ子が「ほこにゃん」を探したいと言うので本屋に行く。不二子F富士夫美術館に行きたいのだと嬉しそうに言うひろ子だが、どうも葉子は不二子には興味が持てない。頭も体も丸々していて気持ちが悪い絵だと思ふ。40分後店に戻ったが長いこと待たされて結局入ったのは受付から1時間もたつてからだ。薄い酒を飲みながらカラオケをする。泉の選曲も歌のうまさも知っているはずだったのにやたらいらいらする。「今日はのどの調子がよくなって」なんて寒い言い訳をするものいつものことなのにいらいら。ひろ子も想像していた以上にヘタで聞くのがつらい。でもそれ以上に、こんな自分と付き合いを続けてくれて二人にいらいらしている自分にイライラした。なんの根拠もないが、もしかしたら奈都子も自分に対してこんな気持ちをもっているのかもしれない。もう電話も帰ってこなくなった。彼女のことを考えるとなぜか失恋よりも気持ちが悪い。あたしはどこがおかしいのか。アルコールが回るとだんだん寛容になってきて、でもやっぱりとときどきいらいらして、なんだか妙な気持ちで別れた。あたしはつくづく孤独の星の下に生まれついているのか。人といるのが向かないって、つらい。

七月十日。カラオケから出た後マックで時間をつぶす。仕事の愚痴をずいぶん聞いてもらってしまった。二人と別れてからまた少し時間をつぶして、それからココスの朝バイキングにいった。からあげと貝の炊き込みご飯がおいしい。御倉と納豆と生卵を潤滑にして

4回くらいリバった。何回も隣の席の客が入れ替わるのがおかしかった。家に帰ったのは昼近くだった。夜母の誕生日の祝いでウナギを食べに行くという。父が母にコブクロのアルバムをプレゼントしているのを見て慌てて自室でなにかあげられそうなものがないかと筆笥をあさったら未開封のハンカチが出てきた。渡すと喜んでくれたが、値札がはがれていなかったせいで値段がばれてしまった。どうしようもない。妹が帰宅するのをまつてみんなで魚庄にいった。15組並んでいたのであきらめて、なぜか坂東太郎で鍋焼きうどんを食べて帰ってきた。なんだかいまいち話に入らず不機嫌になっていたのを悟られてしまう。家族ですらうまくつきあえない。本当にこの世の中は人とうまくやっていけない人間にとつては地獄だ。明日だって早く帰ってくれば一緒にウナギが食べられるのよ、と母が言う。まさかそんな空気の読めないことはできない。私はもう小さい、可愛い、二人の葉子ちゃんではないのだから。父と母の間に入って二人の手をつないでもいいのはその子供だけだ。いまではもう母の一部だったころよりわたしがわたしであった時間のほうがずっとずっと大きくなってしまった。相手のことを「いつまでもわたしのものだ」と思っていたのは母ばかりではない。それなのに、それでも、わたしはそう遠くない未来ここを出ていかななくてはならないのだ。たくさんの傷をみんなに残して、自分も傷ついて、それらを一つも修復できないまま不完全な人間のまま去っていかなければならない。葉子にはそれがとてもつらかった。

七月十一日。だるい。

七月十三日(前書き)

七月十三日

七月十二日。相変わらず1Cの授業が酷い。なにがそんなに面白いのか大声で喚き散らし、雄たけびをあげ、体を机の向く方向に対して不自然に捻じ曲げる。黒板のある方を向かないというのがカッコいい高校生のポーズということになっているのだろうか。ボトムスのホックを外しずり落ちそうなものをベルトで腰に留めると、なに？トイレから慌てて出てきたの？変だよ？髪を立たせるのはいいがその大きい顔をそれ以上大きく見せていったいどうしたいんだろう。彼らは頭と顔が大きいほどイケメンだという、私とは違う文化圏に住んでいるのかもしれない。やたら胸元を空けたがるのもよく分からない。女子も女子で、出していい脚と悪い脚の区別もつかないらしいし。とりあえず顔が大きい子はそのへんなポニーテールはやめたほうが無難だと思う。

久しぶりにまた過食嘔吐してしまった。カップめんとMOWと値引きされていたブランドケーキを一気に食べて、家に帰ってチョコアイスを追加して吐いた。なんとなくすつきりしなくて水を流しでがぶがぶ飲んでから吐くと胃液とともにほとんど消化されていない面がどさつと出てきた。ケーキのほうに後に食べたのに。ということはまだまだ胃の中に残っているのかもしれない。週末プールに行く予定が入ってしまったのもう少し吐こうかと思ったが面倒くさくてやめた。そのあと文字どおりの意味で何食わぬ顔をして階下へ降り、家族と食卓を囲んだ。夕食後物足りなくてナッツをつまんでいたらスイッチが入り、取っておくつもりだったパイナップル味の氷結に手を出して2ラウンド目を始めてしまった。お金をどぶに流しているみたいだと情けなさに泣いたのがついこないだなのに私は全然懲りてない。

七月十三日。三年の授業で、手首の十字について生徒に追及された。葉子はその場ででてきた適当なことをべらべら言い訳しながら、

顔から火が出そうな気分を味わっていた。なんだつてあの頃の私はリストカットの傷に墨汁を流してみようなんてことを考えたんだろ。自分自身のことなのに全く理解できない。

「刺青かなつておもつたんすけど、そんなへタな刺青わざわざいれないつすよね」

生徒の言葉に教室が沸いた。葉子も力なく笑いながら、いつもかわいらしく見えるその生徒を絞め殺してやりたいと思った。余計なことばかり気にしてるんじゃないよ。くそがき。本当にどうかしていた。でおあの頃の自分は自分自身に一生後悔するような傷を負わせてやりたいと考えていたし、実際それはいまだ効力を発揮している。私の望みは叶ったのだ。

やっと授業が終わつたと思つたら学校紹介のパンフレットを袋詰めする作業が待っていた。弁当を慌ててしまつて（食べてからおいでと言われたが、出遅れるのは嫌だつたし、なによりそんな状態で物を食べるくらいなら食べないほうがまだ。葉子が世の中で一番嫌いなことの一つに「せかされること」がある）

食堂の奥にスペースがあり、その部屋には紙が山のように積まれていた。五種類の紙たちをそれぞれ決まつた順番で重ね、ビニールの手提げ袋に詰める。第二学年でのノルマは1400部だ。学年の人数分で割つたらまあそれなりの時間で終わるだろう。しかし実際はそうではない。

「すみません、指導行つてきていいつすかね」全然すまないなんて思つていない口調で藤本がほんの申訳ばかりに詰めたいくつかと残りの紙束をどすつと残していった。

「すみません、塾訪問行かなくちゃいけないくて・・・」塾訪問はテスト期間中に済ませておくべきもののだが。上村は自分なら許されるだろうと全く疑わない表情で阿部に告げた。

「なんで私に言うのよ」阿部も緩んだ笑いをしながら答える。

「いや、やはり班長に、と思ひまして」

どつと笑いが起こる。葉子はずつとうつむいて早くも痛み出した

手首を気にしないように努めながら作業を続けた。

「まあ班長だよな。阿部先生だけ最初からずーっとここいて働いてるし」

最初から一度も席を立たずに作業をしているのは葉子も同じなのだが。葉子は昔からこうだ。成績だって運動だって、いくら葉子のほうが出来が良くてもみんなの前でほめられるのはいつも自分以外だった。人から好かれない。特に好かれたほうが得になるような人には絶対に好かれない。勘弁してよ、臭い、きもい、近くに寄らないで、と思うような人間が仲間を見つけて嬉しいとでも言いたげに葉子にすり寄ってくる。汚いものに近寄られると自分がますますみじめで汚いものになる。

「そろそろ僕も塾訪問に行かなきゃなあ、早くいかないとなあ」隣で五十木が誰に言うでもなく、しかし周りに聞こえるように呟いている。塾訪問で逃げられるのなら何十件でも回ってやるよ。果てしない単純作業に葉子はひたすらいらいらしてくる。

「樋口先生、だんだん雑になってる」資料をだんだん角を揃えずに組むようになってたのをいさめられる。

「すみません」

短い会話はそれだけで終わる。葉子がこんなにいらいらしているのには葉子以外の教員たちが仲睦まじくおしゃべりしていることにもある。なぜだろう。あの輪に入りたいという気持ちはみじんもないのに、近くで見ているといらいらする。これも昔からだ。輪の中に入りたいという気持ちはないのに（事実入っても少しも楽しくなかった）人の輪を見ていると気が焦って妙な感じがしてくる。

いつの間にか作業の仕方に決まりができていたらしく、それに気がつかなかった葉子はきまりの悪い思いをする羽目になった。

「このほうがわかりやすいから」

じゃあせめて一緒のテーブルで作業している私に説明してくれてもいいんじゃないか。なにがしたいのか教えてくれないと何をしたらいいのかわからない。わからせてくれない癖にこちらがとりあえ

ず自分なりに考えて動いた結果を余計なことしやがってみたいに見るのは勘弁してほしい。なにより、どうして自分の思いついたやり方が最高で至上だと思っっているんだらう。いや、私の優先順位とか考え方のほうがおかしいのかもしれない。いつもいつも属する集団において「天然」だとか「KW」だとか思われてきたんだから。葉子にはほんの小さな子供にだってわかることが分からない。目の前にあるものが視界に入らない。誰もが気がつく大きな音が聞こえない。どんなばかにもできる簡単なことができない。できそこない。失敗作。障害者になりかけ。白痴。油虫以下。死ねばいいのにこんな汚物。

まだ水曜日。土日も部活だし、最近葉子はほんとうに、生きるために働いている牛馬のよ持ちがしょっちゅうする。牛や馬のほう自身の不幸を顧みるあたまがないだけまだしもましかもしれないと思う。こんなに頭が悪いのにあたまがあるのが私の不幸だ。そう、葉子は思う。いつそ気が違ってしまったほうがよっぽど楽かもしれない。

七月十四日(前書き)

七月十四日

顧問がまたわけのわからないことでキレた。自分自身も真剣に諭しているつもりなのを生徒から「キレた」とされてはらわたが煮えくりかえる思いをしたが、なるほどあれは確かに「キレ」てる。

人間どうすると間抜けに見えるかというのがよくわかった。

いったい彼はうちの部員たちに何を望んでいるのだろうか。体育会系に自己中なやつが多いから体育会系は嫌いだといつか行っていたように思うのだがそれは自分の気のせいだったのだろうか。

「すいませんでした」

「すいませんじゃねえんだよ。おまえら何が悪かったかわかってんのか？」

「はい」

「はいじゃねえよ。わかってねえだろ。うそついてんじゃねえよ」「うそついてません。体育館にいました」

「いなかっただろ。二時から練習だって予定表にもかいてあったのな。あ？なんだよ、なんでお前が切れてんだよ？」

「きれてないです」

「きれてんじゃねえか。おまえほんとになんにもわかってねえな。やめちまえ、学校やめろ。迷惑なんだよお前らみたいなやつがいると」

・・・なにをさせたいのかさっぱりわからない。謝っても受け付けないし、黙ってれば怒鳴るし、質問に答えればやっぱり怒鳴るし。40分近く好きなだけどなり散らした顧問を仕方なしに追う。

「先生」

「や、樋口先生。どうもすみません」さっきの今でニコニコしている。

「あの、これからどうしたら」

「いやいいんですよ。僕はもうあいつらのことなんかなんにも知り

「ませんか」

うそつけ。趣味も恋人もいなくて部活しか居場所がなくて夏休みにちっとも休めない予定組んだ癖に。唯一自分が王様でいられる部活って箱庭が好きで好きでしかたがないくせに。ていうかなにその顔。裏表使い分けちゃうじぶんかつけーとか思ってるんですか。

そもそも、うちの子たちが規律ある行動とか時間厳守とか、できると思ってますか。できないからこそここにいるんでしょうが。あなたの要求は脚のない人に歩けっていうようなものです。

今日講堂で薬物乱用に関する講話がありましたけどね。あんなのでたらめですよ。薬物は別に悪くない。っていうかただのモノに、いいとかわるいとかそういうものありませんから。薬物で身を持ち崩す人はね。たとえ薬物と出会わなかったって、遅かれ早かれ何か別のもので破滅するんですよ。それだけの人間だったっただけです。

それをモノのせいにするのはどうかしている。ギャンブルだって薬だってお金だって恋愛だってセックスだって車だって掃除だって水だって猫だって太陽だってタバコだって観葉植物だってダーウィンだってシェイクスピアだってAKB48だって田村正和だって洗濯機だってかぴパラさんだって怒りや、嫉妬や、怠惰や、悲哀や、空気がだつてある人にとつての破滅のスイッチ（あるいは原因）になるわけだけど、それらが悪いわけじゃ決してない。モノでだめになる人は、結局それだけの人間だったってこと。進化論だよ。弱い種は滅びて強い種だけが生き残る。たった一粒の種のくせに思考能力があるから人間だけはどうやってぐちぐちぐち悩まなきゃならぬわけだけど、その悩みだつてしたつてしなくたって同じようなもの。経路がどうねじ曲がってもひとは自分が生まれついたようにしか生きられない。

ふっ。

とりあえず、自分の武勇伝ときれいな理想論をここで、世の中のかすの吐きだまりでドヤ顔して語るのには勘弁してほしい。

明日の授業がいや過ぎてリバった上にビールまで飲んでしまった。

るねつがあやしい。

よつこちゃんも寝ます。明日もあるし。おやすみ！

七月十九日

七月十五日。一年が酷い。なかなか帰れない。過食が酷い。

七月十六日。暑い。地獄の釜の中のように。スポーツもスポーツする奴もみんな大嫌いだ。全員苦しんで死ぬ。私をまきこむな。一人スイパラで隣に座ったギャルに化け物扱いされる。聞こえてるってわからないかな。服も化粧品も買えないのに食べ物ばかり買ってしまう。家についたとたん号泣。もういやだ。

七月十七日。同上。うざいうざいうざい。しかも遠征でさらに一日休みがつぶれる。みんなしね。

七月十八日。海の日だけどプール。小瀏がキモイ。体がぶつぶつとなにかの跡だらけだし歯並び悪いし色が歯の途中から色変わってる。マジ勘弁してほしい。早く彼氏ほしい。不細工嫌い。

七月十九日。疲れた。日曜休めないこと確定。マジ顧問死ぬ。一生懸命書いた文章が消えてショック。このパソコンおかしい。

七月二十六日

七月二十日。台風がすごい。気分がすぐれなくて仕事が終わるのが待ち遠しく、仕事を言いつけられる前にそそくさと帰った。全部雨と風に流されればいいのに。

七月二十一日。まだ学校がある。この日もそそくさと帰る。そうだがこれくらいに帰るのが人間の仕事だ。

七月二十二日。まだ学校がある。夏休みの宿題作りがかるく怒涛だった。仕事だらけで帰れない。ポーナスよこせ。過食嘔吐が止まらない。一応付き合っていることになつて歯並びの悪い男が誕生日らしい。どうでもいい。プレゼントとか面倒くさい。とりあえずメールだけしておく。日焼けがようやく痛くなくなってきたと思つたら背中から腰から尻から黒くまだらに汚く焼けていた。せつかくきれいな白い肌だったのに。そんなはずはないけど、もし戻らなかつたらと思うとぞつとする。めんどくさい。来週も土曜出勤なのにまた土曜出勤かよ。

七月二十三日。土曜出勤。生徒指導要録のファイルに背表紙を作らなければならず六時間残業。あほかと。ファイルくらいけちけちなしないで背表紙のある奴を買えよ。紙印刷してテープで張つたり、正直貧乏くさいし、ていうかこの時代に紙媒体ってなんなの。過食嘔吐が止まらない。

七月二十四日。ボラボラでランチフリータイム。楽しかったけど衝動に負けてはいたら喉が死んだ。最悪。ソイジョイのお試し版を五個かっぱらってきた。頑張つてスカートを一着とまつ毛美容液を買った。買ってからもっといいスカートがみつかっていらつとした。明日から研修。

七月二十五日。やっぱりわたしは人と話すのむいてない。相手がつまらなさそう& amp;引いてるのが分かる。私だって話したくないのに。母が友達作れとか言つてきて中学校以来の「イラ」。友

達友達友達。友達がいる奴全員死ぬ。人づきあい分からなすぎてもう積んだ。わらびもち食べてはいた。

七月二十六日。成績原票の登録にミスがあつた。期末は評定だけって言ったじゃん。それとも私が小林先生の助言を一部分だけ聞き逃していたのか。はじめ言われてなかつた！とか思つたけどなんだか言われたような気もしてきた。そもそも出した先生みんなに入力した？って聞かれたのに自信満々でしたとかいってて自分を殺してやりたい。「評定だけいれればいいんですよね」って言うてれば「え、違うよ」っていつてくれたかもしれないのに。土曜日に音楽室の掃除を勝手に判断してやらなかつたことも思い出して本当に今死にたい。このままどんどん失敗してみんなの信頼を失つていくのが怖い。もう失敗しないといつていつまで信用してもらえるんだろう。悪い想像しか頭に浮かばない。一人スイパラでまた二千円をどぶに流してしまった。こんなに苦しいいやな思いをして稼いだお金なのに全部トイレに流れていく。手首を切りたくなつてくる。こんな人間は罰しなければならぬという気持ちがあぐんぐん大きくなつてきて怖くて仕方がない。明日も明後日も明後日も永久に来なければいいのに。学校に行くのが怖い。人に会うのが怖い。仕事をするのが怖い。子供のころから今までずっと、大人になつても私は学校が怖い。

八月二日(前書き)

八月二日

七月二十七日。研修最終日。ここにきていきなり睡魔がやばい。午前も午後も若干船をこいでいた。終了後同期の四人で飲みに行く。270円居酒屋に入るが、あまりにも食が進むのに恐れをなして途中で帰ってきた。全額割り勘されたらいや過ぎる。あたしは酒を飲むときはご飯を食べない主義なのに。家に帰る前にスーパーによってまた過食嘔吐してしまった。カップめんとスナックとアイス。たった三百円でこれだけの食材が買えるのにと思つたと外食なんてもつたいたなくてできない。できてもビュッフェだ。胃液まではいたらさすがにくらぐらした。明日学校に行つてあたしが原票をいじつた先生方に謝り倒さなければいけない。なにか胃の一部が超薄型コンドームみたいに透き通つてる気がする。何かの拍子にぱちんと破れそうな気がする。

七月二十八日。朝からめちやくちやに謝つて回つた。自分がだめな人間ですと体中に塗りたくつて過ごしている気になって、かなり落ちた。成績会議はひたすら眠かつた。何を話していたのかいまいちよく覚えていない。校長と席が一番近いのに。もうやだ。

七月二十九日。学年登校日。いったい何のために来ているのかよくわからない日。夏休みなんだから休ませろよ。日曜にカラオケ行くのだけが楽しみ。そのためになんとか過食しないですんでる。部活が本当にうざすぎて家に帰つてから涙が止まらなくなった。情けない。でもやつぱりうざい。スポーツとそれにかかわる人間とモノが死ぬほど憎い。気持ち悪い。大っきらいだ。

七月三十日。学校説明会。説明会自体は結構早く片付いたけどそれからの午後が長かつた。就業時間を過ぎてても部活が終わらない。頼むから拘束する用事は定時までにしてほしい。お盆は誰が何と言おうと休んでやる。お母さんだつて知るもんか。正社員になるより今現在の心の平穏が大事。それに仕事はちゃんとやつてる。今の部

活は就業前に約束した範囲を大きく逸脱していると思う。あれはきちがいの所業。父と母は今日から白馬へ旅行。夏の白馬って何を見るんだらう。妹が帰ってこないと家に入れないから papa のほうまで行って時間をつぶした。ポップガールが閉店するらしい。セー ルでデニムのショートパンツとヌブラを買った。占めて2000円なり。最近少し足が細くなって嬉しい。脚は使わないほうが細くなる。眠れなくて三時過ぎまでネットで遊んでいた。

七月三十一日。朝から大宮に行こうとしたのに起きたら11時だった。慌てて起きて、妹も起こして最近お気に入りのカラオケ屋に行った。十二時過ぎ、初めて水槽付きの部屋に通してもらった。靴を脱げる形式でテンションが上がる。サラダバーに見たことがないグラタンと肉みたいなのと魚のマリネがあって嬉しい。ここはデザートと七八百円相当の選べるメインとサラダ、ドリンクバーがついて六時間千五百円のカラオケなのだが、どうせならサラダとデザートなしで千円くらいにしてほしい。力を入れるところが間違っていると思う。今日は吐かないと決めたので喉の調子がいい。持ってきたデジカメで曲を録音するが意外と動画の容量が小さくて面倒くさい。四ギガじゃ足りないらしい。レールガンで100店出すってどんな初音ミクだよかし。

終わってから彼氏かもしれないでも歯並びと歯の色と口臭がどうしても嫌で嫌でしかたがない相手に誕生日プレゼントを買わなきゃいけないことに気づき丸井へ。ポールスミスの名刺入れと一途の望みをかけてファッション誌を買った。頼むからこの程度のセンスを身につけてください。明日から夏期講習だ。冷凍してた団子と半額パンとそのままももろで存分に食べてはいた。このくらい自由にさせてほしいよね。

八月一日。夏期講習一日目。めんどい。キモイ生徒が最前列に陣取っていて顔を見るだけで本当に吐きそう。鼻の穴が気持ち悪過ぎる。なんであんな顔面で生きていけるんだらう。こないだ代行したクラスにも物凄いデブで臭くてふけだらけで、しかも女な生徒がい

たけどあれが自分の15歳だったら私は自殺してる。死ぬより辛いことっていっぱいあると思う。呼吸する生ごみのほうがまだましな存在だと思う。肥料にもなるし。そのうち担任を持つかもしれないけど、不細工はともかく不潔な生徒だけは私絶対差別しない自信ない。気持ち悪い気持ち悪い気持ち悪い。ああああ。親がどら焼きを土産に帰ってきた。焼けそうに甘かったけど気持ちは嬉しい。楽しかったみたいでよかった。

八月二日。なんで就業は5時なのに六時まで部活なのか本当に意味がわからない。午後から事務の手伝いをなぜかすることになって厚紙を切ってフィルムで加工して裏面にシールを張る作業をしていたら入ってくる教員たちから同情の目で見られた。帰る前になんでもはいはいきいてると雑用をおしつけられるから気をつけると忠告までされた。私からしたら部活とかやってるより100万倍もましなんだけどな。ほんとスポーツに携わる人間はみんな苦しみぬいてから死ねばいい。アディダスとかヨネックスとか津波に飲まれてなくなれ。個人個人に恨みは全くないが、私はとにかく体を動かすのとそれに付き合わされるのが大っきらいなんだよ。みんな滅べ。

夕飯のパック寿司を半分残してしまった。でも午前中にもみじ饅頭と煎餅とどら焼き食べたからカロリーは取りすぎなくらいだと思う。体重も増えてたし。夏休み中にできたら三キロ落としたい。今年は何んだか行けそうな気がする。倒れそうなくらい細くなればみんなわたしにやさしくしてくれるような気がする。こんな見た目だから何もかもうまくいかないんだ。不細工でも細ければなんとかなるかもしれない。

八月三日

今朝、明後日の夜に脱毛サロンの予約を入れた。カウンセリングを受けないと施術はしてくれないらしいが、いろいろごたくを並べてカウンセリングだけにされたらむかつくなあと思う。

最近部活で練習の手伝いまでさせられるようになった。汗をかき非常に腹立たしい。食べる量が減って運動量が増えたのにちつともやせないのはきつとストレスのせいだ。もうほんとに部活動とか考えたやつ死ね。あと普通のTシャツ来てるだけで胸があいてるとかなんとかいう奴も死ね。なんでもかんでもそういう目で見てるからそういう風にしか見れないんだよ。本当に死ね。簡単に殺されるゴキブリとか蚊とかに対して死んで謝れ。首元が詰まった服を着ると顔がでかく見えるから嫌なんだよ。どうしてこの世では美形と不細工がいて、しかも不細工には不細工を隠す手段すら取らせてもらえないんだろう。そのくせ人間は見た目じゃないとかまじうける。美人にしると肺はないが、せめて加工させろ。

八月七日

八月四日。夏期講習最終日。生徒の一人がうるさいから模試対策をとってやろうとしたのにその子だけピンポイントで休み。何考えでんだか。河合模試は難しすぎたらしくぐだぐだな90分間になった。

最近部活でのシャトル上げが完全に自分の仕事になりつつある。うっかり顧問の説教タイムに残された生徒にシャトルあげていたせいのような気がする。一回二回、ひまなときとかならいいが、ノルマになってしまうと正直うざい。右手ばかり使うと半身だけが疲れるのでどうにか左手でもなげられないか画策した結果、左手投げのスキルまで身につけてしまった。何の役にも立たない。

自分が意味がないとか、嫌いだとか思っているもののために時間や労力やお金を使うのは、それらがたとえ痛くもなんともない負担だったとしても精神的な消耗が大きい。だからわたし水泳とスキー以外のスポーツはことごとく嫌いなんでば。特に暑い思いするのは最悪。シャトルを拾うたびに膝を曲げているせいか、就職してから少し細くなったはずの脚が早くも発達しかけてきている。前腿が堅い。「……………」

家に帰ってから明後日の彼氏かもしれない人のお誕生日お祝いのために代官山のイタリアンを予約した。青山のフレンチにしたかったのに。イタリアンの店は単価が高いらしくて正直コースを頼む意味がわからない。でもアラカルトで料金の上限が予想付かないのもいやだし。相手が男でなければ表参道のブルガリがやっているカフェに行ってみたかったのだが。鳥の餌みたいな量のお上品なランチで相手がおなかをすかせるのもかわいそうだ。

八月五日。町役場で住民基本台帳カードの申請をするため午前休みをとって午後から部活のためだけに学校へ行く。パスポートか免許証がないと一回目は申請しかできない。母親に余計なことを言う

となんで身分証がいるのかとかぐだぐだ聞かれまくった上に、変な勘繰りまでされそうなのでいつもと変わらない時間に家を出た。コンビニで一時間漫画を読んで、ほぼ九時ぴったりに役場に行った。そのあとは特にやることもなかったが休みなのに学校に行くのもばかばかしくふらふらしていたが暑くてとてもいられなかった。こういうとき本当にこの街はいらいらする。お茶を飲むところすらないのだから。公園で弁当を食べたら蚊に刺されまくって、食べている最中もよくわからない羽虫がぶんぶんとんで、本当に不愉快な思いをした。胃の調子が悪い。コーラックのせいかもしれない。あれをやるとおなかが下るだけじゃなくて吐き気とか悪寒もでる。それにあれで出すものは異常に臭い。真っ黒で、べたついていて、水っぽいのができる。絶対体に悪そうだけれど、普通食を普通量食べるとならんかの代償行為をせずにはいられない。こんなにブスなのにこれ以上デブになったら目もあてられない。

部活は顧問が進路指導で顔を出せなかったせいで非常にのんびりしていた。体育館は蚊が多くて、虫よけをしていたのにまた刺された。うちの部活しかないときは窓も開けてないのにどこから入ってくるんだ。顧問は終わりのころちよつとだけ入ってきて、水曜日の午後から遠征に行く嬉しそうに言いだした。頼むからちよつとくらい私にも選択権をください。午後からでしかも遠征じゃほとんど一日そのために使わなければならぬ。なんでこの男はこんなに私の時間をどぶに捨てさせるのが好きなんだろ。暇なのはお前だけだわたしを巻き込むなくそやるろ。手取り20ないんだぞこちら。毎日四時間以上サービス労働して、研修とかにも行かされて、もういやだ。誰でもいいからリッチな専業主婦させてくれる金持ちと結婚したい。もういやだ。

八月六日。代官山で待ち合わせなのを母にぐちぐち言われた。現地集合現地解散なんて愛がない証拠だ、かわいそうだ、おまえは人でなし。あんまりだと思う。だってタクシーとかちゃんとした車ならともかく、軽自動車とかJRとかで隣に座つても正直冷めるだ

けだし、うざい。わたしはそもそも他人が一定距離内にいるのがストレス。相手が自分に好意をもっていてもらってもそれは変わらない。というか、大方のまともな人間は私のことがきらいだし。自分を嫌っている相手と一緒にいたくはないよね。

渋谷から歩けそうだと思うたら原宿のほう近そうだったので原宿から表参道まで歩いたがやっぱりなんか違うみたいなのでまた原宿渋谷と戻って渋谷からあるいたらなぜか恵比寿について、それからなんとか時間ぎりぎりに代官山についた。

食事はまずくはなかったけれど三千円の価値があるかというところ微妙。代官山のマンションがどれもこれもきれいで、こういうところに住みたいという気持ちがむくむくしてきた。少しの間でもこんな暮らしができるなら体でも臓器でもうっぱらうてしまいたい。なにもかもがきれいで品がある。坂が多いのも素敵。でも相手は尻の座りが悪いらしく、渋谷に行こう渋谷に行こうとあつというまに代官山を連れ去られてしまった。

恵比寿で前登録しかけてビビってやめたプロダクションのビルをみて鬱になった。なんで大学時代にやっておかなかつたんだろう。キヤバクラより人にも言えるし、いろんな出会いもあったかもしれないのに。いまショートパンツをはける足になってからはさらに後悔することしきり。やってみたらいろいろできたかもしれないのにもしかしたら代官山に住まわせてくれるようなひととの出会いもあったかもよ。でもこの仕事をしているかぎりそういうことには手は出せない。ていうか、もうそろそろ「トウが立った女」になつてしまふ。いやだ。若さを無駄に垂れ流してしまったことが悔しい。まだ間に合うとかいう人いるけど、もうこれからイベコンはどう考えても難しいよ。脱毛もコンパニオンもメイドカフェも整形ももっと早くしておくんだつた。悔しくて悔しくて仕方がない。なつちゃん誘ってくれなかったのは私がブスだからか。くやしいくやしい。もしかしたらあの程度のことならできたかもしれないのに。もうやだ。お似合いのひとつとなんかいたくない。今一瞬の損得だけの付き

合いがしたい。深いのとか重いのとか本当にだめなんだ。人の善意が気持ち悪い。ぬるくてべたべたして、耐えられない。不幸体質だ。ってわかっててもいやだ。理屈なんかなくて、ゴキブリをみたらうわきもって思うようなもんで、私は「まともな」ものに拒否反応が出てしまう。それがいやなのかそれをきらってしまう自分がいやなのかわからないけど自己嫌悪ではちきれそうだ。

ストレスで一万くらい安物買いをして、家のまんぱんのクローゼットを思い出して鬱になり、池袋のお見合いパブで変な男とつい飯を食べに出てしまいタクシー代もくれなかったのにまたいらいらを蓄積させて、ひたすら不機嫌で家路についた。

八月七日。気分は変わらず。カラオケに来たのにぜんぜん気が乗らない。くやしいくやしいと後悔ばかりが胃をせりあがってくる。明日から仕事だしもうやだ。体重はまた増えた。いいかげんにしろよ食つなこの白豚。

八月十一日

八月八日。部活のためだけに学校へ行く日。様子がさっぱりわからないので四十分前についたが、さすがに今日は人が少ない。今日も当然のようにシャツル上げをやらされる。いやでいやでしかたがなくてどこかで針が振り切れたらしい。妙にテンションが上がってあたまに上った血が降りてこない。東京行き計画がなんだか面倒くさくなってきた。涼しい部屋でネットだけして過ごしたい。

午後ココスのドリンクバーで彼と二時間近く話をした。私はファッション誌（自分の好みではないが精一杯妥協した結果の相手が好きそうなジャンルの。相手が好きそうとはつまりリュックを背負えるか否かだ。たのむから街中でナツプザックとしかいいようのないずたぶくろを担いで歩くのやめてください。両手が空いてないといやだっていうけどあなたの両手がいったいあいていたからどんな生産的なことが起こるっていうんですか。そんなにひたすららくらくにすごしたいなら精神病院の拘束服のなかで栄養点滴で生活すればいいよ）、彼はわたしにこの間のキャンプで行った河口湖のお土産をもってきた。山梨の赤ワインだった。大事に飲む。

八月九日。あまりにあつくて疲れてたぶんそれが生徒にも伝わっていたんだろう。なんとなくきまわずかった。顧問は相変わらず声を出せ声を出せつつうるさい。ええい、とかおおい、とかあの掛け声にいったい何の意味があるのか、文系の血しか流れていないわたしにはまじさっぱりわかんない。こいつセックスンときもこんな調子なのか？疲れると、若いとろいOLにセクハラするおっさんの思考トレースをしてしまう。役場に行って住民基本台帳カードをつくってきた。このまえと同じ顔触れ。書類を受け取ると「ちょっと待ってください」といいながら一人が引っ込んであとのふたりはにこにこ内輪のおしゃべり。ちょっといいながら十五分はもどってこない職員にいらついでおしゃべり女どもにいつまでまてばいいのか、

ときくと「少々お待ちください」だからいつまでつてきてんだよ
お前の脳みそここ連日の暑さで腐ってんのか。家についたのは3時
それもこれも一時過ぎまで部活をやる顧問が悪い。ほんとうに苦し
んで死ねばいいのに。スポーツやってる奴は全員不治の病にかかっ
て苦しみながら死ね。明日は顧問の前任校にいなきやいけないし。
夕飯前にいらいらしてエビスの大きいほうを飲んでしまったら父に
嫌がられた。ああ本当にもういや。チツクに体入予約入れてしまっ
たらそつちのそわそわが大きくて少し治まった。こういう意味でや
っぱり私には水だの風だのの空気が必要だ。カンフル剂的な役割で。

八月十日。最悪としか言いようのない一日だった。家を早くに追
い出されて胃が落ち着かなくて王子でどこか店でも探してカシヨロ
うとしたらほんとうになんにもない。きれいなトイレがありそうな
店も皆無。千葉の田舎にきているみたいな雰囲気。東武ストアの場
末感がパ無い。そして暑い。気が狂いそうになるほど暑い。毎日毎
日汗だらけになる。洋服も髪も洗わなくちゃういけなくて摩擦で消
耗が早まる。夏は若さというよりは老いとか衰えの季節だ。すべて
が死に向かって一直線に動いている気がする。そしてついた体育館
は汚い。とにかく汚くてあつい。どうしてあいつらあんなに戒律厳
しくせに練習場所がほり臭くても平気なんだろう。トイレは言
ったスリッパでべたべた歩いてるところで腹筋運動始めたりしちや
いうあたり部活人とはとにかく衛生観念が合わない。ここであと七
時間。本当に死ねよ。おまえもおまえもおまえもおまえもだよ。し
ねしねしね。若い貴重な時間がこんなところで蚊に食われて（蚊が
酷い。いまこうしていても羽音が、虫が血をすおうと皮膚の近くに
当たる感触が、する。気持ちが悪く体中がかゆい）浪費されていく
と改めて感じさせられて泣きそうになる。わたしは刺された跡がき
れいに消えてなくなる性質ではないし、たとえ消えたってそれまで
赤い斑点が白い肌に梅毒患者みたいに残っているのは目に不快だ。
おまえのクレーターみたいな皮膚がどうなるうがおまえも他人も気
にしないんだろうが、わたしのは別なんだよ。生徒たちと距離の取

り方を間違っていた気がする。なんでわたしにアイスをおごつてもらえんとか考えるんだろ。おまえらはわたしという人間をちからいっぱいおろし金におしあてて痛い痛い泣きわめくわたしをずりずりおろしてすりころしてしまおうとするたくさんの手のなかの何本かなんだぞ。加害者なんだよ。冗談じゃねえ。さとられまいとにこにこへらへらしていたのが完全に裏目。私がこんなにつらい思いをして月に14万だかそこら。セックスが平気なあたまに生まれたかった。せめて風俗のアルバイトでもして毎週末に20万ぐらいずつ入ればもう少しこころも穏やかになるのに。こんな思いをしてこんな少ししかもらえないなんて。事務の試用期間中の小川さんに電話を試してみたら向こうも向こうでとんでもない労働環境らしい。これから先何十年こんな生活を続けることを思うとあんなにきらいな子供を産んでもいいかかと思ってしまう自分がいる。それくらい仕事がつらい。

八月十一日。とりあえず六本木に来てみた。有楽町線が止まったせいで新宿から六本木まで40分近くかかってしまったあげく30円をけちって六本木一丁目から歩こうなんてしたせいで件のスタバについたのはもうお昼になるころだった。汗をかいたのと足が痛いのと途中セレブを見すぎたせいで完全にグロッキー。東京のガイドブックで食べ物を眺めるだけで四時になってしまった。ワンピースを着替えて、駅のほうへ向かう。先に店を見て置いてみたかった。・ ・ ・ たしかになんだかすごかった。チツク、キンコンカ、瀬里菜、グランクリュ、聞いたことのある店ばかり、行きかうひとはみんな頭蓋骨が小さい。行きたくなくなって本屋に行ったり、時間をつぶす場所を考えているうちに六時になってしまった。電話を受けて店に行つてエレベーターを上げる。ドラマで見たことのある豪華ならせん階段、曇り一つない鏡の壁にゴージャスな雰囲気椅子とテーブルが並び、いかにもキャバクラ。赤とゴールドと白で統一されたきれいな店だった。私以外にも面接が2人きていて、大したことないギャルっぽい感じだったので安心していただけれど目の前に座った

面接官はあきらかに自分をみてがっかりしていた。ここで明るくはきはき対応していたらまた違ったのかもしれないけどすっかり委縮してぼそぼそ目線きよるきよるでそうでもなくともだめなのにきもさ倍増。やっぱり来なきやよかった。後日連絡（「不合格」）だった。むかつ腹立ってシングルスバーでただ酒飲もうとしたら出禁になっていた。前回の二時間たつたつてないのあれのことか。結局二時間座ったのに。あの女。マジ死ねよ。多分ここでまともに考えるあたまが死んだ。単価の安い池袋や新宿に行けばよかったのになぜか銀座の並木通りを歩いてスカウトのノルマ達成に使われて、どこにいくにも変な時間になって新橋の1500円。汚い汚いうたひろで一晩明かした。マイクは臭いしすぐ音とぶしコンセントが少ない。というかそのまえに11時まで時間をつぶすのがものすごく辛かった。ナンパも本当に暇な時に限って絶対かからないし。こういうとき付き合ってくれる友達がほしい。まあこんな思考に至ったせいで翌日と翌々日わたしはなかなかどうして後悔とイライラに苦しめられることになるのだが。なんとなく気乗りしないカラオケをまずい臭いお茶を飲みながら（これで1500円・・・）猛烈にさびしくて悲しくて仕方がなくなつた。自分がみじめだった。私は都市生活とか孤独とかに向いていない。ブスだし要領悪いのろまでしかも怠惰だ。なのに憧れは捨てられなくて蛾みたいに光のありそうなほうをふらふら飛ぼうとして、ああもうお金がほしい。ひたすらお金がほしい。たくさんお金があつて、きれいにきれいになればさびしさなんてなくなるはず。

八月十四日

八月十二日。今日も多分部活はあるけど構うもんか。昨日の引きずりでむしゃくしゃした気分のまま銀座まで行つて有楽町線で新宿に帰ってきた。そう。帰ってきたのだ。やっぱり新宿と池袋は自分のホームだという気がする。知らない路地もないし、いる人間もいい程度に低俗だ。水商売の世界でまで見た目以上にコミュニケーション能力が問われるというまあよく考えれば至極簡単なことに気がついて葉子は結構すつかり落ち込んでいた。新宿靖国のミスドで新発売のベイクド紫芋を食べようとしたがどうにも自分の胃の状態がドーナツを受け入れられそうになかったので麺を頼む。あつたかい汁のある麺類ってなんでこんなにおいしいんだろう。永遠に食べ続けられそうな気がする。知り合いはみんな（パスタ含む）麺類が嫌いだからけっこう普段はさびしい思いをするが今日は全くの一人だから気にしなくていい。なんだか明後日まで町にいられる気が全然なくて、しかもちひろはなんだかいつも都内住みのくせに泊めてもくれないし上から目線なんで面倒くさくなって予定をキャンセル。泉に声かけたらオール付き合ってくれるらしいので泉と遊ぶことにした。それまえに御庭で和食バイキングして買い物して五時ごろ池袋に行った。なぜかやつはコーヒー一杯七百元もするくせに店内がざわざわ騒がしい喫茶店に入っていてむかついた。なんなのなんでこんなに見せ探すのが下手なの。隣同士近すぎだし窓の近くだから暑いし虫が飛んでてふくらはぎがどんどんぼこぼこになる。イライラしながら高いコーヒー。漫画のプロットをつくっているというから見せてと言ったら、なんとニーとになって四カ月、登場人物と設定のプロットしか書いておらず話の内容もオチもないらしい。そりゃ親御さんだって怒るわ。いったい今までなにしてたの。それでいったなんて徹夜とかしたのか意味分からん。絶対こいつ真夜中眠いとか疲れたとかいうぞといまから嫌な予感。というかまた太ったら

しい。だから新しい水着が見たいって・・・やせるよ。なんでそんなに太るの？吐かないあたしより食べないし酒も飲めないのに。しかも唯一きれいだっただ髪の手すらなんか油でべっとりとしてあたまのてっぺんはふけが浮いている。こんなのでなんでそんなに水着が着たいんだろう。正直いやだ。デパートの水着売り場を引きずりまわされる。ギャルっぽい原色がいらしい。かわいらしい水玉とかのほうはまだどうにかなりそうなのに、ピンクとか水色はガン無視着れなくなった水着に色も形もそっくりなものを買ってしまった。あほじゃないだろうか。八千円とか。やせるよ。

ドンキとか見て、居酒屋でやつぱり疲れて不機嫌になってる。しかもがつつり食べたいとかいいつつ居酒屋。頼むから飯食うならファミレスにしてくれよ。なんで単価の高い店で飯食いたがるの。しかも居酒屋飯とか油と塩分ばっかでげるまずいものばかりだし。アラカルトでガンガン頼む人って本当にいや。こっちは財布が気になってやっていられない。気を使う相手じゃないので、自分のビールを御通代だけ小銭をテーブルの上においてこれ以上払いませんよアピールした。実際これ以外飲み食いしてないし。みっともないのは承知だけどあなたの脂肪をふくらますのに投資する気もないんですよね。

八月十三日。朝四時にタイムズスパレスタにいつて1600円。夕々のお風呂最高。せっかく一人じゃないのに相方はいつまでもいつまでもいつまでも体を洗っている。つまらん。本当なんなの。そんなにあなた汚いの。風呂に入っている間は元気だったしちよつと贅沢空間に喜んでいたが、出たらいきなりまた疲れたモード。デブが体力ないと無性にいらいらする。その脂肪ほんとむだだよ。あたしも気をつけよう。ブスとデブの体弱い自慢はイライラするだけだ。心配ですらない。うるさいのでさっさと帰らせる。プールの誘いは絶対無視しよう。ひとりでミスドにいつてからいり豆に花で3R過食嘔吐した。しばらくこないからなんて思われてもいいや。午後美容院に行つて、洋服とか見てから帰った。夕飯は家で食べた。

酒を飲ませてくれなくてむかついた。

八月十四日。おばあちゃん家につれていかれる。留守番でも車の中でも妹との会話はほぼ〇。なんであいつあんなにお高くとまってんの。わけわかんないオーストラリアでカンガルーにさらわれて行方不明になつて数一〇年後にわけのわからない民族の長とかになつてシドニーを襲撃して世界を未曾有の恐怖に陥れたりしていけばいいよ。あるいはコアラになつてしまえ。帰りの車で、おなかがすいたと言つたらこんなにおなかがすく人が仕事帰りになにも食べないでいられるはずがないと母が言うから悔しくて怒鳴つて、涙が出るほどとりみだしてしまつた。食べたい日と食べたくない日があるつてそんなにおかしいか。本当にうざいああああ。

帰ってから昼寝のつもりが七時まで爆睡。いきなり整理来る。夕飯食べすぎ、ソイジョイ食べても止まらない。いまここ

八月十六日

八月十五日。しながわ水族館に行く。駅の待ち合わせで何口か決めていなかっただからぐだぐだして、靴が合わないせいで足が痛くてイライラして、ガキがわんさかあふれかえっているののでげんなりした。だから盆にどっかいくの嫌だったんだよ。何なんだこいつ。葉子はとなりの一応付き合っていることになっている歯の汚い男を見た。なんだかむしゃくしゃしたのでチケットのお金は知らんふりをした。請求されたらそのとき払えばいい。水族館は汚くて人でごった返っていて不快だった。脚が尋常じゃなく痛い。そのあとなぜか上野まで行ってカレーを食べて、白いワンピースにしみつくった。

もうこの服着れない最悪。まだ三回くらいしか着てないのに。靴を買ってはきかえた。そのあとアメ横をぶらぶらして東京駅に行つてサンパカでカオソフトを食べて日比谷のインペリアルラウンジで酒をがぶがぶ飲んだ。食べ物があんまり高いので酒ばかり飲んでいてすっかり酔った。ビールをしこたま飲もうと思っていたのに結局一杯だけだった。オリジナルカクテルつてやつが死ぬほど甘くてまじくった。なんとなく不穏な空気を感じていたら、別れた後家に夕飯を食べにこないかというメールを受け取ってしまった。埼玉県で内定先が学習塾で、家の格もうちより低いし、万が一結婚したって私にも働かせる気満々らしいし、正直これ以上近づきたくない。とりあえず断つたけどどうしたもんだらう。

八月十六日。おばあちゃんちに行きたくないがゆえにけんかつの図書館で一応勉強していた。タンクトップにショートパンツというなんだか露出過剰気味な格好をしていることに気がつく。帰りヤオコーでしろくまをたべてマルエツで生クリームロールを食べたら過食衝動が来てソイジョイを3本も一気に食いしまつたがなんとかいまのところ吐かないで住んでる。家に一人ならマルエツで半額になつていたパンを買ってきて存分に過食嘔吐するのに。そわそわす

る。そろそろ学校が始まるのもいやだ。ていうかいつの間にか公立
に行くって目標を忘れていた自分に愕然。わたし今すごくあたま悪
くなってるし、いまからやっけてどうにかなることだろうか。

八月十七日

有楽町の銀座口に十一時半といったのに、来たのは三十分遅れま
すだけのメールだった。携帯を逆向きに折りそうになった。大学の
数少ない友人のりっちゃんはいつも葉子との約束に遅れる。多分
相手があたしでなければ時間通りにくるんだろう。キャンキャンと
か「」とかの雑誌をうのみにして、自分の装飾品にだけは金遣
いが荒くて、体弱いアピールの多い痛い子だけど、葉子には友人が
とにかく少ないのだ。というか、自分と友達になつてくれるのなん
てその程度の人間だ。そもそも昨日の夜から息が苦しいのでも頑張
っていくだのうざいメールがきて嫌な予感はしていた。だから朝に
も確認の意味で「今日大丈夫？」とメールをして、大丈夫だとい
うから来たのに。家からここまで片道九百円以上する。葉子は「もう
いいよじゃあ」とだけ打って、昼食を取りに行くことに決めた。四
年の付き合いだが、我慢の限界だった。ああこうやってわたしもい
ろんな人から切られてきたんだろうなと思った。きつかけとか動機
とかつていうのは、嘘だ。ありとあらゆることはすべて幾重にも折
り重なった時間の上に決まる。ニュートンのリンゴはただ最後のほ
んのひと押しにすぎない。何時間にも何日にも何年にも及ぶ観察と
思考とが彼に結果をもたらしたのだと思う。

前から行ってみたかったリプトンのランチビュッフェに行つてみ
た。すごい行列だった。なので葉子は順番が来るまでに謝罪のメー
ルが来たら許そう、とひとつかけをしてみることにした。行列は進
まない。メール。「もうすぐつきます。まってて」誰が待つか。

もうこれで友達の縁がきれても構うもんか。いらいらが物凄い。
三十分くらいで席に案内された。食べるぐで評判の良かったサン
ドイッチは具だくさんで確かにおいしい。鶏肉の脂身の多いところ
をクリーム煮にしたものも気に入った。パスタは惰性で取ってしま
ったけれど微妙な味だった。始めは普通の食事のつもりで食べてい

たのに、ケーキのせいでスイッチが入ってしまった。脂っぽいもの、炭水化物をちよつと異常なスピードでかつこみ、ケーキを無料の紅茶で流し込んだ。おいしいと思つたサンドイッチは気がついたら口に押し込んで呑み込むだけのものになつていた。全部おいしいのに憎たらしい。おなかがかくちくなつたせいで律子に対するいら立ちが治まつて自己嫌悪に変わつてきたのも過食を加速させた。六十分の時間制限をいっぱい使つて、二階のトイレで吐いた。脂っぽいものを詰め込んだ分気持ちいいくらいすつきりはけた。

そのあと暑い銀座をブラブラ歩いた。買いたいものはたくさんあるけどお金がない。明らかに水商売の女とその客であるような二人をたくさん見た。うらやましかつた。ティファニーとかアルマーニとかヴィトンとかカルティエとかよくわからないけれどもほしい。自分で買つても意味ない。誰かに買つてほしい。そういうのぼんぼん買つてくれるならセックスとかしたつていいのに。でもそういう機会は私にはなかつた。もっとしょぼいのならあつたけど。まああたしも何してあげたわけじゃないからしょうがないんだろうけど。まだ女として価値があるうちに高く売りたいけどあたしみたいな女が水商売以外でどこでそういう相手を見つけるつていうんだ。本当にあの家に生まれたのが疎ましい。大学ではキャバクラとか銀座のクラブとかでアルバイトして人脈創るつもりだつたのに全部計画がぶちこわれた。仕方なく出入りしていた出会いカフェは私の人格と男に対する幻想をますます打ち砕いたし。まあ風俗に落ちなかつたのはカフェのおかげだしカフェの一番おいしい時期を体験できたのはよかつたのかもしいけど、いかにせん単価が安すぎた。当時はそれなりにお金周りによかつたけどぜんぜん引つ張れなかつたし、貯金もほとんどない（ニート時期と過食嘔吐のせいもあるけど）腹立たしい。今水商売はあたしだけじゃなくてたいていの女の憧れだつつうの。なつちゃんみたいな青春を送りたかつた。なつちゃんはとうしてるかな。あたしは絶対仲良くなれると思うのに、距離をとられてしまふ。正直失恋より辛い。あたしはおかしいんだろうか。

そのあとりつちゃんと一緒に行く予定だったピエールマルコリー二にいつて1700円のチョコレートパフェを食べた。この世のものとは思えないほどおいしかった。吐いたせいで背中と胃が痛くて体調が万全でなかったのが悔しい。食べ終わる頃には完全に元気になっていて、もう一杯食べたいのを理性で捻じ曲げて帰ってきた。ムースが濃くて、アイスもちゃんとカカオなのにもろやかで甘くて無糖のホイップもおいしいしバナライスはぶちぶちにバナラビーンズが入っていた。カカオの力か元気になってしまったのでまあから気になっていた有楽町の献血ルームに行ってみた。いつもと同じで赤血球の量が足りなくてできなかった。献血できたのは唯一一回、大宮だけだけど、大宮のはなんか基準がおかしいんじゃないだろうか。あそこだけだ検査とおるの。携帯の充電させてもらいなからこつそりサツマイモあいすを食べ、クッキーをふた袋食べ、家路にいった。今日は泊まるんじゃないのかと母が機嫌悪くしていた。新橋と池袋での二晩を経て、結局電車が代がかさんでも家に帰ったほうが快適で安く上がると気がついたのだからしかたない。でもまた物凄く一人になりたくなったらみじめな貧しい夜を過ごしてみるとひとのありがたみがわかっていいかもしれない。

八月二十一日

部活をサボって大宮のココスで存分に食べて存分に吐いてきた。

親には嘘をついた。非常に気分がいい。二通目の「やっぱり休みます」メールには返信がなかったが知ったことか。・・・でもこれ以上休まないようにしよう。

午後はベッドに寝っ転がってネット。酒が飲めれば最高だけれど日の高いうちは飲ませてもらえない。グラスも使えない。つまらん明日からそろそろ学校が始まるのが本気で憂鬱。なっちゃんからの連絡も多分来ないし。お金はほしいが、働きたくない。

八月二十六日

八月二十二日。親知らずが痛い。のに吐いてばかりいる。アメ横で買ったマカダミアナッツのせいだ。あれ気持ち悪くなるのにとまらない。脂肪にも依存するらしいからそのせいかも。とにかく体がだるくてつらくて体育館のアリーナでこっそりうとうとしていた。渡辺の中学一年生の弟とその友達（といっても中三）が遊びに来ていて、うちのレギュラー陣は彼らに負けていた。野球部が因縁の学校に大差で勝つたらしい。それになぜかうちの顧問が浮足立っていて、やっぱり学校は部活が強くないとかいつていてうざい。頼むからそのへんなドリームに他人を巻き込むのはやめてくれ。本当に具合が悪くて、周りに人がたくさんいるのがすごくストレスだった。朝化粧もできなくてマスクをして過ごしていたが、マスクに突っ込み入れるひとがたくさんいて本当にイライラした。家に帰ってもなにもできなくてずっとベッドで寝ていた。

八月二十三日。また朝食を吐いてしまった。それでまたへんなビスケットとかは吸収させちゃうんだから嫌になる。もうすこしためになるもので体をつくらないと、相変わらず体がだるくてなにもやる気が起きない。今日から勉強合宿がはじまって身の回りがすつきりしていて快適。このまま誰も帰ってこなければいいのに。とはいえ今いる先生方が忙しく動き回っている中とくにやることがないのもそわそわした。

日曜どうやらやつの実家に行つて一緒に飯を食わなければならぬらしい。面倒くさい……

八月二十四日。大会一日目。上尾陸上競技場。暑いけどこの前ほどじゃない。生徒も顧問も何を考えているのか全然わからないし分かりたくもない。羽つきがそんなに好きならそういう工場にでも勤めればいいのに。途中何度か抜け出して近所の汚いスーパーで半額セールになっていた小物アイスを食べたりして乗り切った。まだ歯

がすごく痛い。朝食の生ハム載せパンとか最悪。かたくてやわらかいのがものすごく歯茎に障る。帰り上尾駅近くのはんこ屋で訂正印をつくるうとしたら店頭にあるものは五百円なのに千五十円取られた。珍しい名字ツて損だ。明日の準備でセキチュウにいくからまっすぐ帰らないで時間をつぶしてくれとメールが来て、明日両親が旅行だったことを思い出した。夕飯は昼間アイスを三個も食べたからご飯を抜いたけれどマカダミアナッツを食べてしまった。五千円をおかあさんからせしめた。よっしゃ。

八月二十五日。身が入らない。旅行委員の子の英語作文を添削する用事ができて助かった。こうしてみると自分は「勉強がすぎ」なんだなと改めて思う。スポーツなんかするくらいならたしかに勉強したほうがましだ。二時に学校を上がって大宮に行く。始めマックで六時から十一時間フリータイムを強行するつもりだったけれど休日料金らしいので興がそがれてビッグエコーに行こうと思うものの十一時スタートのくせに二千六百円するしでうだうだしていたらユースタイル（アイスつきフリードリンク完備）が十一時から朝まで千八十円というのでそっちにした。時間まで本屋、ブックオフ、閉店間際でもう帰れよ・モードのミスドで時間をつぶした。ミスドで化粧を落としていたら壁にでっかい黒い蛾がいて蛇口に近寄れなくなってしまった。顔がぬるぬるして不快だったし肌にも悪そうな気がした。だれが座ったかもわからない椅子の上で身を固くしながら家に帰りたいなあと考えた。あの歌広の晩を思い出した。始め通路側のせまい部屋だったが途中で変えてもらった。録音どころか動画の撮影ができるサービスを見つけてかなり手間取りながらも登録してためしてみた。自分の唄ってるところが見えるのは面白い。生クリームのはったプリン、玉子豆腐三連。豆乳クッキー六百キロカロリー、ミスドシナモン風味なポンディングにあんこ挟まったやつとかろくなもの食べてない癖に結構カロリーをとっているのとおさげにしなくてよかったなとつくづく思う。そのまま朝までノンストップで歌いまくってあたまがびよびよしたまま朝のドンキをぶらつ

いてJRの改札に入って、超直を取ろうか迷ったが食欲がないのでトイレで長々身づくろいして着替えスペースでちよつとだけ気を失って、そのまま南与野に向かった。

八月二十六日。だるい。駅から体育館まで歩く途中で巨大な、鮮やかな黄緑色をした芋虫をみてしまって嫌な気分になった。本当にこのあたりは汚い街だ。ヨーロッパに比べて日本は景観を気にし無さ過ぎるといわれているのがよくわかる気がする。ここらの家に住んでいる人たちは毎朝憂鬱な気分にはさいなまれなりしないのか。あんなに、窓の近くに樹の枝がしなだれかかって。虫が入ってきそう。気持ち悪い。ローソンの卵サンドがものすごくおいしそうに見えたがなんとなく買わなくて、そのかわりにマルエツでカップめんをかっつて人目を気にしながら啜ってしまった。こんなところ知り合いにみられたら生きていけない。

試合は十一時には全員ストレート負けで勝負が決まってしまうていた。ここから蒸暑くてやることなく機嫌悪い顧問が傍らにいて六時間。死ぬ死と死に思っていたら顧問の勘違いで帰ってよかったということが三時過ぎに発覚。大宮についてからそごうの上の中華料理屋で二回りバってしまった。もう。

帰りお母さんたちとの合流の際すこしあぶなかったけど爆発しないで済んだ。明日が憂鬱。早めに寝よう。

八月二十七日

体験入学と部活動体験。この前の学校説明会がメインのものとは違うから個別相談は40人ほどしかいなくてカルテ整理も楽だった。英語の授業を聞きにいった。主任がいつもより早口になっているように見えた。あんな人でも（この「あんな」はいい意味）緊張するらしい。そのあとベテランの先生の面談を見学させてもらったけれど途中強烈な眠気が襲ってきて死ぬかと思った。ばれていなかっただろうか。西武文理にいただけあってやっぱり凄い人なんだと思う。いろいろ問題はあるらしいけど、まさに立て板に水というかんじだった。肝心の生徒のほうは気持ち悪い顔面をしていて、しかも多動性らしい。始終落ち着きなく腕を動かしたり視線をさまよわせたり。こういう点で自分は教員に向いていない気がする。きもちわるいにんげんはきもちわるい。ほんとに。あと一センチ近かったら蹴り倒してしまいそうだ。なんであんなきもちわるいかおで平気で生きていられるんだろう。まともな美意識とか人に迷惑をかけないようにしようという心を持って生まれていたらとつくに自殺していると思うんだけど。もうそこからして私の理解の及ばない化け物だ。

朝はじめ何をやるのかさっぱりわからなくてやりづらかったけど隣の先生とも雑談ぽいことができたし定時上がりだし穏やかな気持ちで帰ってきた。明日のために1500円の焼き菓子も買った。作れば安くてうまいのに。馬鹿らしい。でも初めて訪ねるお宅なら焼き菓子が安全だよなやっぱり。

夕飯が待たなくて煎餅的な菓子を食べまくって、スパムとキャベツの焼いたのを食べ、にぎりぎりの御相伴にあずかって、納豆を食べて、そこで終わりにしときゃいいのにサラダ煎餅を追加したせいで吐いてしまった。キャベツもつたいない。まともな食べ物を流してしまうとすぐくもつたいなく感じる。実際もつたいない。昨日のみたいなのは平気なのにな。

八月三十日(前書き)

八月三十日

八月二十八日。久々に大出を振って休める日。彼の実家に行つて、そのあと大宮のジョイサウンドで食べ飲み放題をやった。彼の母親が自分の勤め先の卒業生だったと聞いてビビった。多分和やかに進出したと思う。ビール飲まされたけど。明日部活が終わった後三井のアウトレットパークに行くことに。

八月二十九日。朝気持ち悪さで目を覚まし、黄色っぽい酸のペーストを吐いた。血が混ざっていた。体を引きずるようにして学校に行つてみたら部活なかった。確かにそんなこと言つてた気がする。新井先生に頼まれていたコピーを慌てて刷つて（後からひと学年分まるまる抜けていたのに気がつく）予定より一時間早く待ち合わせて入間のコストコとアウトレットに行つた。会員には彼がなつた。家族カードを譲つてくれるかと思つたけれど家族手いくこともあるだろうから黙つた。サーモンは水っぽかつたけれどマフィンとアップルパイの試食がおいしかった。巨大なスーパーは面白かつた。駐車料金を気にして途中で一回で手入れ直してからアウトレットを見た。アップワイザーリッシュエと丸井のアウトレットがかなり安く興奮した。セットアップとアンサンプルニットを買つた。向こうも巻物なんか初挑戦していた。三時ごろ遅い昼を採り、八時半ごろ家についたその足でカラオケルに行つた。この前のユーススタイルだ。

前回楽しかつたので二匹目のドジョウでそこに行つたのだがひどかつた。十一時を二十分近く待たされ、クロツソの部屋にもなかなかしてくれない。学生多くうるさい。声もなんだか出ないし何が歌いたいのかわからなくなつてきた。これはもしかして、飽きたのかわたし。

八月三十日。やつほう部活する休みで二重埋没直してきました。朝、五時から予約の十時まではコンビ二で実話ナックルズとかジャンプを立ち読みして過ごした。けちらないでカフェに入ればいいの

に。昼食もけちってついまた食べ放題にしてしまつて後悔した。なんとなく気分が悪いまま東京まで行つてサンパカのソフトを食べたりデパ地下試食めぐりをしつつ、自分とかけ離れた世界をたくさん見て鬱になった。自分は社会の底辺ではいずりまわっているノミ蟲みたいなもんだと思う。ゆで卵を三個過食したくせにステーキの夕飯を平らげてカロリーが怖い。母とお笑い番組を並んでみた。なんだか落ち着かなかつた。昔は自分の考えていることが全部母に分かつている気がしたけれど今はどうなんだろう。

ところでまぶたの黒い点は糸が毛穴を内側に引つ張り込んでしまつたことにより皮脂その他がつまつたにきびのようなものだった。前回のデブがあんまり感じ悪かつたので担当を変えてもらつて、そいつも埋没なんて詰まんない手術どうでもいいしみたいな態度がすけてみえたがまぶたの幅を左右合わせてあげると行つてくれてほつとした。どうやら人の顔を言うものはきき手がだんだん反対に比べて長くなるのと同じように右側のまぶただけ肉があつくなるそうだなのに件のあの医者はまぶたの厚みを考慮にいれずとにかく同じ幅で縫いつけたんだ。ふざけんだから非対称だったのか。腫れは別に休むから気にしなくていいですつて言つたのに最初から最後まで腫れる腫れないの話しかないし。それより幅取つてくれつつうの今日の奴はやつぱりカウンセリングは激短だつたが今のところ添付れ通り「ひろすぎる二重」になつてくれている。この前は全く変わらなかつたもんね。ちよつと内出血してるけど冷やすの面倒くさい。しかし事前カウンセリングでいろいろ聞きたいこととかこうしてほしいこととかあつてもすぐく言いづらい。まさかそんなことまさかしないと思うけど、これから自分に施術するこの医者を怒らせる気を損ねたりしたらわざと手抜きをしたりあとで具合が悪くなるように何かされるんじゃないかつて勘ぐつてしまつ。麻酔を効きづらくするとか。もつと命にかかわる事態で手術を受ける人はこれの何倍も怖いんだと思う。こういうところから医者 of 勘違いとかドクハラとかが生まれるんだろう。金を払つているのはこっちなものにな

ぜか病院では客の立場が圧倒的によわいのだ。文字とおり命を握られて
いるわけで。ちなみに今回も私はめたくそに痛くて怖かったです。
一番初めの目薬はいつてないのに看護婦さんひとり納得して行
っちゃうし、ライトめっちゃ眩しいし、まず古い糸取るだけでもう
痛くて帰りたくなっだし、ほんとうに麻酔効いてたのか板入れると
きはやっぱり悶絶した。

八月三十一日

中村農場で卵丼を食べようとしたら定休日だったので清里の清泉寮に行つてソフトクリームとかミルクスープとかフランクとかプリンとか食べてきた。三人で出かけるのは本当に珍しいからなるべく起きていてたくさん話をしようと思つただけで車に揺られていると眠くなって結構道すがらうとうとうとしていた。安心しちゃうのかな。清泉寮でミルク餅と大吟醸カステラをお土産にする。父は最後まで卵丼のことを憂いていた。

帰り御殿場で甲州のB級グルメ一位になつたという甘辛い鶏モツ煮を食べた。赤みそと山椒が効いて甘辛い濃い味付けがおいしかった。きんかんという鶏の体の中でこれから卵になる予定の未卵も入つていた。考えてみると結構酷い食べ物だけどおいしかった。また時間ができたら今度は鹿の力レーを食べに行こうと言われた。なんだか懐かしい話もたくさんしたけど覚えていないことも多い。家族つて空気みたいなものなんだと思う。もうちょっとちゃんと覚えていたい。時間が、手の指の間から砂がこぼれていくみたいにとんどんなくなつていく。かき集めようとしても脚の下には水が流れていて、同じ砂は二度と帰ってこない。

夜は狭山インターで武蔵のうどんと半熟玉子のてんぷらを食べた。肉やマイタケや葱の入つたしょうゆ味の濃いアツアツのおつゆに氷で締めたしこしこのうどんをつけて食べる。ドライブ中つてつい甘いものばかり食べるからとてもおいしかった。

七時くらいには家について、いま部屋でこれを書いている。やっぱり家につくと自分の部屋に帰つてしまふし、無理して近くにいるもなんか変な感じがする。なんなんだろうこれ。くつついてたいのに。不思議。

九月二日

特に重大な出来事が起こってるわけじゃないのにいたずらに時間だけ拘束されて、自分のスキルアップにつながるでもなし。つらい。

九月一日。とにかく眠い。前日ちゃんと十二時前には寝たのに、学年会でうつらうつらしていたような気がする。まぶたの腫れはともかく内出血が治まらなくて、生徒何人かと福井先生には自分からばらしてしまった。だってあきらかにあやしんでるんだもん。でも今から考えると「内出血しちゃって」とか「逆さまつ毛の手術で」とか言ったほうがよかった気がする。

一年生がやつぱりぜんぜんため。三年も。全然授業にならない。なになそんなに一年中楽しいの。なんでそんなに年中ゲラゲラゲラゲラ笑うことがあるの。本当に理解できない。結局私は学校に、というか人と接するのに向いていないんじゃないだろうか。やつらが子供とか大人とか女とか男とかじゃなくてもつと低俗で気持ちの悪いなにかべつの生き物としか思えない。実際化け物レベルの不細工も多いし。

体重は変わらないのに顔が丸くてぱんぱかぱんだ。なんでだろう。不愉快。

学年会の前に図書室の補助員が紹介されるといわれていたのに忘れてしまっていた。阿部先生も忘れていたのがまだ救い(？)だけれどあいかかわらずこの人とは緊張する。丸くなる前の母を思い出す。二十日のウエスティンまで貝食いは控えようと思ったのにそんなの守れるはずもなく、サケの切り身を買って塩を振ってがつがつ部屋で隠れ食べた。どんなものでも人にみられないところで隠れて食べるものがどんなごちそうよりおいしい。誰とも会いたくないし話したくない。

九月二日。授業が始まる。相変わらず授業は大崩壊。もうやだ。あいつらなんでそんなに馬鹿になりたいの。五分も黙っていられな

いの。楽しそうで何よりだよ。しねばいいのに。明日も時間割がぎつしりだし、来週もぎつしりだし、泣きそう。土日はがつつり試合だし。

放課後講習のときもうほとほと嫌になって帰りたいたい人は帰ってと言ったら七人くらいしか残らなかった。問題にされるだろうか。でも帰ってつたやつらが教室にいたって、どうせあいつら「そこにいる」だけでなにひとつ聞いてやしないから同じだと思っただけだ。

部活が筋トレで早く終わって、さあ帰ろうと思ったら明日の保護者会の資料をくむとか言い出した。印刷するまではいいけど、なんで明日ホームルームで生徒に配るんじゃないか理解に苦しむ。どうしてこちらがそこまでしななければいけないのか。配られたプリントを一時間くらいもなくさないでいられない人間ってもう社会じゃ必要とされないと思うのだが。しかも教員分も刷らされたが、これ昨日の学年会で配られた資料と全く一緒だ。どうして同じものをもう一度配布される必要があるのかやっぱり理解に苦しむ。結局学校を出られたのは九時ちょっと前。私は朝七時半から学校にいるんだぞ。頭おかしんじゃないか。月二十万も行かないのに毎日十四時間拘束されてるって。空き時間なんかいらなから時給制にしてほしい。五百円でもいいから時間外の労働つけてくれたらかなりの小遣い稼ぎになるつつうの。早くやめたい。仕事しなくて済むなら子供産んだっていいくらいだ。とにかく私にはこういうの耐えられない。向いてない。はやくしにたい。んで、死ぬならこんな思いしたくない。

夜はおなかですいていたけどウイスキーだけ飲んで寝た。体重が大幅に増えて、体の厚みが半端ないことになっていた。何この豚。

九月三日

今日も元気に授業崩壊。もう本当にみんなあいつら苦しみぬいた揚句に今までの人生全て後悔して泣きながらたった一人で息絶えたらいいのに。

とはいえ午後の保護者説明会のほうがいやだった。なにをすればいいのかさっぱりわからない。担任にしか流れが知らされていない部分もある。ただ、思ったのが、何をすればいいのか無能の指示待ち人間と化すときでも、オドオドモードをやめるだけでも印象が多少変わるんじゃないかということだ。はきはきと、「私仕事したいんです！あほだけど仕事探してます！なんかさせてください！」って感じていたほうがいいんじゃないだろうか。次回からこのことを心掛けてみようと思う。

部活でまた顧問が切れた。「つい熱くなっちゃう」じゃねーよと思う。別に熱くてもいいけど、少なくとも私を巻き込むのはやめる。失った青春を年下使って取り戻そうとするな。好きでやってる人は無給労働とか思わないだろうが、私には業務時間外の拘束はことごとく拷問。興味はみじんもないし、しかもバドミントンなんか見てもなんのスキルにもならない。勉強する時間や体力だけが奪われていく。体が疲れていると頭は働かないもん。明日も来週の土日も部活だし本当に死ねよ。あの個人に恨みはないがほんとうに部活やめてほしい。とにかく部活。

あと浦江がちょっと、いや大幅に気持ち悪い。あのどろっとし目がまず気もちわるいし、腹の中で何考えてるか他の人より三割増しで見えないし、体弱いアピールが半端ない精薄臭。近くにいつときよっとしてしまふ。こっちなにかが吸い取られそう。不気味。芋虫みつけたときみたいについ目が離せなくなることがあって悪夢。なんか妊娠でもして退学してくれないかな。

九月五日

九月四日。朝から上尾鷹の台と練習試合。一時までって前提がおかしくないか。普通の人間は十二時にご飯を食べるんですけど

そんなわけで気分は最悪。朝から病的に生クリームがほしくなってミニストップでカップデザートを買って駅で流し込んだ。クリームはおいしかったけど残りがなんだかよくわからないまずいムースとプリンで嫌になった。最近ようやく「おいしくない」という感覚が（体調関係なく、味覚的に）分かるようになった。しかし酷いゼラチン質だ。

学校につくと意外とトイレがきれいだったのであきらめていた胃の中のものを吐きたくなってしまっ、もうすっかり消化していたすっぱい液体をちよつとだけ出した。喉を痛めたただけだ。そのあとがやばかった。低血糖がカリウム不足か知らないがほとんど意識を保っていらなくなってふらふらくららしていた。顧問は気づいていてスル。なのか自分が楽しくて気がつかないのか触れなかったが正直寝ていたと思う。

帰り定期を買わなければならなかったので大宮まで顧問と一緒に気まずかった。一つの話題があんまり続かないからぼつぼつお題を出してはそれが終わって・・・みたいにテンポの悪い会話を繰り返して大宮についた。まとめ買いしても値段変わらないと思っていたのに結構差があるらしくてショックを受けた。いま半年買ってもな

・
・
初サブウェイ。ツナとか馬鹿にしていたらめちやくちやおいしかった。野菜とパンって合う。こんなに高くなければしょっちゅう買いたい。大きさと満足度の割にはやっぱり高い。サンドイッチが4、5百円とか。

ビッグカメラでフォトショップとかコミスタの本を読んだがなにがなんだか全く分からないし興味をそそらない。パソコンで絵を描

きたい気持ちは物凄くあるのに……。生徒にとつての勉強もこんな感じなんだろうか。解析度とかファイルとかほんとに全く何が手掛かりなのかもわからないし、お手上げだ。機械と私は相いれない。そのあとスイパラ行きたくなつたがお金がないので抑えたのに、ごうの地下で揚げ物の試食をおいしく食べたならスイッチが入って、セブンのチョコミントコーン、スーパーカップのクッキーバナナ、半額のかぼちゃ大福、餅巾着で吐いた。帰りにヤオコーで禁断の力シューナッツまで買ってしまった。食べ物代さえ浮けば私今頃大金持ちだと思う。おやじども転がして稼いだ金もまだ残ってただろうな。セックス売らなかつたのが奇跡だ。

九月五日。昨日の暴飲暴食がたたって朝食が食べられなかった、というのはうそで二度寝しました。十二時前に寝たのにな。

授業をもくもくこなして、事務とか学校説明会とか学級活動よりらくだと改めて思う。決まった動きだからだ。あと他人が介入しないから。やっぱり私は技術職についたほうがよかつたんだろう。理系のアタマOだけど。

放課後特選特進の女子にクラスTシャツを買えと詰め寄られてつい押されてしまったがどうしてもいやで担任に相談して恥をかいた生徒しか動いてないなら生徒を言いくるめればよかつたのに。誰が嬉しくて担任でもないガキの作ったTシャツに金を払わなければいけないんだ。千円でも二千円でも、五百円だつていやだ。正直十円でもいやだしむしろくれるといつてもいらない。床を磨く雑巾ならうちにもいっぱいある。文化祭とか滅びろがこつちの本音なんだから。ちよつと勘弁してくれないかなとか言わなかつた自分をほめてあげたい。

そのあとまた馬鹿どもの和文英訳に付き合わされ。だから日本語をそのまま英語に直訳しようとするなつての。頭をつかつてください。使えないならどっかにその頭埋めとけ。

いつものゆで卵が半額になっていたので電光石火で買って、家に帰った。今日は「何かやることありませんか」も言わなかった。

ちなみに大会は11日丸々になった。成田には行けない。これだけでも最悪なのに、今度の大会では五校と五試合ずつ、それぞれが試合をするらしい。一校でいいじゃん！！なにかんがえてるの、なんなの、ばかなの、しぬの？羽つき大会とか元旦にやれよ！むしろ元旦ならデパートもあいてないし全部正月料金だし部活あってもいいのに、一番いい時にばかりぶつけやがる。好きなやつはいいだろうけどこっちは迷惑っていうかむしろ呪うぞ。どうしてそんなにハタ迷惑なの？羽つきにかかわるすべての人がお亡くなりになりますように。

あ、そうそう鷹の台の顧問は小林ね。もと野球部だそうです。

九月七日

九月六日。1Cの授業が完全に崩壊して口を開いたら泣きそうな気がしたので一時間ネグレクトして通した。文化祭が怖い。

なにがそんなに面白くて年がら年中ゲラゲラゲラゲラわらってるんだろう。なにをコソコソクスクスいつまでも内緒話しているんだろう。学生のころから全く分らない。教員になったらもつとわからない。上昇志向がまるでないし、勉強できなくて恥ずかしいって気持もないらしい。自分よりくずな人間がいるのは安心するけどそれが取引相手だのお客様だのになると話とは別だ。雑草みたいなものか。知らない山にでも生えてるならあー自然だなーですむけど、自分の庭に生えてると不快。

国内研修の打ち合わせもわけわからない話ばかりで海外は忙しそうだけど手伝いすべきなのか何なのかわからないし、夜中眠れなくてウオツカをリンゴジュースで割って隠れ飲みだしたけれどさっぱり酔えなかった。コップに一杯半は飲んだのに顔が赤くなるばかりで全然眠くも楽しくもならなくて、いらいらしてチキンラーメンとか生卵とか食べて吐いた。そのあと卵黄とキムチ混ぜたのを部屋のじゅうたんにぶちまけて死ぬほど後悔。いまも赤い色が落ちてない。

九月七日。平穩に過ぎた。ここに三日酷い過食衝動さえ収まれば言うことないんだが。生徒指導部の仕事に振り回されてる福居先生の仕事を手伝ったら虫の居所がいいのかなんのかやたら感謝された。喜んでけばいいのに、馬鹿にされてるのかとかいいように使えるように「育て」てるのかとか、「ほめて育てる教育実施中」なのかとかとにかく自分の考えは卑屈だ。

しかし、これを書いている今も食べたくて食べたくて食べたくて仕方がない。土曜日ココスの屑バイキングにでも行くか。

九月九日

九月八日。三百円のマルチパックとモウのエスプレッソ。我慢爆発でアイス衝動買いした。明日は二学年がテーブルマナー研修でないから気が楽で電光石火で帰れると思ったら学校に帰ってくるらしい。文化祭前だからか。ほんと文化祭爆発しろよ。

朝甘いものが食べたたくて食べたたくて仕方なかったのをミントミルクとか言うよくわからない新商品を買っただけ買ってごまかして一日過ぎた。結局それは飲まなくてその代わり学校にキープしていたドライジンジャーを呑み込むように食べて、寝過ぎたせいで食べられなかった朝食のパンもこそこそデスクで食べて、早弁までした。おかしいこの午前中の食欲。明後日絶対ココス行こう。やっぱりウエスティンまで我慢はできなかったよママン。

部活が明日ないのが死ぬほどうれしい。今日昨日と上村先生が五時半になるや否や電光石火だったからなおさらうらやましかった。給料安いんだからせめて拘束短くしてほしい。いくらあたしが無能だからって本当に酷い。苦しむために生きているみたいだ。正直世間体さえなければニートになって体でも売って暮らしたほうがよっぽどいいと思う。こうしているうちに女としての消費期限はごくくと近づいていて、処女膜は重くなる。まともな男はほとんど売れて目が肥えてあたしになんか見向きもしなくなるし。

あー鼻整形したい。下から見たとき鼻の穴が丸いのって本当にみじめ。落ち込んで見せたってみつともなくしか見えないし。悲しそうにしたとき同情引ける顔になりたい。もちろんいい意味でだ。体の調子が悪くても誰も心配してくれない。

今日篠崎先生とトイレでちょこつと話して、あたしより五歳くらい年上なのに肌がきれいだったり、顔が驚くくらいちっちゃくて体が細いのをみていたら自分と同じカテゴリーの生き物とは思えなくてすごくみじめになった。不細工は嫌いだけどあたしより不細工が

いなくなつたら死にたくなるからやつぱり多少は必要だと思つた。

九月九日。人に見せるものではないと開き直つてからの自分の文章が酷い。

生理が来た。ここ何日かの異常な食欲はこれだったのか、と思う一方で別に生理関係なく私の食欲は化け物だったような気もする。今日はただでさえ四時間授業があつて、しかも放課後講習と音楽室掃除とマナー研修に行った先生の自習監督があつてずっと稼働しっぱなしだ。一二限の卒業研究はほとんどやることなくて他二人の先生が受験対策に右往左往しているのをいいことにほとんどネットサーフィンして過ごした。ホテルラウンジ見たりあさつて行くと野の周りにミスドがあつたらいいのと思つたけどないのを確認してうぎぎつてしたり。いかにもありそうなのに……。久々にミスドのモーニングでエンドレスコーヒーしたい。大学時代つてよかつたな。一二年は嫌なことばかりだつたけど自分の時間が増えた四年生とか就職のことさえなければパラダイスだつた。一二年だつてもう少し上手くやれたはず。過食症さえなければ万引きも人の目が気になるのも人とは食べられない症候群も方と首がこるせいで多動になるのも集中力の欠如も睡眠障害もなかつた。水商売に足突っ込んだりもしなかつた。あんだけ食べてはいてまだ食べたいし体には贅肉が山ほどついてる。今もアーモンドが止まらない。このままこれからどうなっていくんだろう。同僚の女の先生の疲れた肌とかたるんだからだとか見ると怖くて仕方がなくなる。私なんか若くてもぶすなのに年取つたらテロみたいな女になるんじゃないだろうか。頭の中身もからっぽだし。

なのにうちの学校のアタマ底辺で（あたしより悪いんだ。相当だ）ぶっさいくな女どもが（男も）毎日ゲラゲラゲラ笑つてるのを見ると殺意が沸いてくる。全員トラックに詰め込んでそのまま崖下に大分すればいいと思う。冬の海の底に沈め。

うちのクラス放課後講習大量脱走しやがった。浦江鈴木さ根元丸山あたりが本気でうざい。浦江はともかく（顔はいいほう。気持ち

悪いけど。(残り高校生のうちから顔面凶器でなに勘違いしてるんだろ。特に根元髪もつさしすぎ。鈴木は顔面センター。丸山は眼鏡取ると誰だかわからなくなる。ごめん赤眼鏡って認識してたわ男だと矢作が顔でかくて脚短いくせにいきがってうざい。そういうえば中村は混血らしい。だからあんなに下品なのか。混ぜるのもいいけど組み合わせを考えるって感じた。外人に足開くのは勝手だけど変な血日本の社会にいれてくれるなよ。佐藤もいい加減にしろ。集団でいるときだけテンション高くてイライラする。大いなる愛で包もうと思ったけど無理だわ。私の博愛精神金魚すくい網よりもろい。昨日の今日で内心大崩壊してたわ。こんなんで英語わからんとか苦手とか嫌いとか、おまえら全員国内研修しろ。文化軽視する奴が外国行くとろくなことにならない。ミキサー車に放り込んでバラバラしておさかなさんの栄養分になればいいのに。おまえらが社会に貢献できるとしたらそういう原始的な場面でしかありえねえよ。いるだけで害だ害。飯食うし息吸うし糞たれるし。水洗トイレの水道代がもつたいないから体に糞詰まらせて死ね。ちようどうんこみたいな顔してるしちようどいいじゃん。あーうざい。

九月九日（後書き）

ひどいな後半

九月十二日

九月十日。突然降ってわいた休みだ。何をしようかと考えて、特に何もできないのに気がついた。というか正直何をしたいのかよくわからない。とにかく休みたい働きたくないのが本音だが休むって今までどうしていたんだっけ。

迷走して挙句近所のココスで豚の餌みたいな食べ物を散々過食嘔吐してしまった。ほんといくら700円だからって伊奈店の品ぞろえは悪すぎる。唐揚げもないしメロンパンもピザもとろろもない。あさりの炊き込みご飯もなかった。全部まずい。ホットミルクも薄い。それでも限界まで胃を痛めつけるとあの鬼のような食欲が少しは収まった。生理が始まってしまったせいもあるのだろうか。

母には部活があつたことになってるので家に帰って無理やり少しだけラーメンを食べて、母とちよつとした時間喋っていた。話が熱くなるといつい嫌なことを掘り返してしまいそうになるので緊張もあつたが楽しかった。でもそれにしても私は本当に歩く地雷原だと思う。母にとっては見たくないもの消してしまいたい物の象徴みたいに思われても確かに仕方ない。人間の根っこが屑だから。今持つてる生徒たちより屑だから。精神病に依存癖に盗癖に売春まがいなこともしたし自意識過剰でわがままですぐキレるしもう本当にどうしようもない。だらしなくて努力が大っきらいなのが決定的だ。毛嫌いしていたルーキーズを見た。面白くてちよつとむかついた。溝端順平ってあんなに顔整ってたんだ。

夜食べすぎたけどおいしかった。レバーのにつけたのが特に。

九月十一日。宏美の迎えには結局行けなかった。正直この一日のことは思い出さたくもない。とにかく暑い暑い暑い暑い暑い暑い暑い暑い暑い。くそつまないし、結局0勝だし夏あんだだけ迷惑掛けといて何考えてんのばっかじゃないの。みんな死ぬ。女子もやめるなら辞める。最後のところまで大っきらいといってる顧問に責

任持ってもらおうなんて甘すぎる。いやならちゃんと直談判してやめる。こいつらバイトとかもバツくれるタイプなんだろうな。目先のちよつと苦しいことが我慢できなくていろんなもの間をふらふらして何一つ身につかないタイプだ。しかし汚いし暑いし本当にスポーツなんかみんな嫌いだ。携わる人間一人残らず苦しみもがいて死ぬ。ストレスでアーモンドをばりばりやって雪見大福のマルチパツクを飲むように道端で押し込んで吐いたけれどほとんど出なかった。吸収早すぎて頭が痛い。デブは嫌だ。呼吸する生ごみ。なのに食べることにしか楽しみがない。

九月十二日。朝死ぬほど憂鬱だったけれど行ったらなんとかなった。まあお菓子は止まらないんだけど。時間割もさっぱりわからないし。問題はその後と。

家についたのは八時半で、当然こんな時間にモノをたべたら脂肪まっしぐらだ。だから朝食食べるというただけなのに母発狂父発狂。自分の常識をこっちに押し付けるのはやめてほしい。おまけに仕事中のストレス間食すら禁止する気ですか。死ねっていうんですか。あたしはあなたたちと違って劣等遺伝子なんで人の間に入って普通に生活するだけでも常人のい何倍も何倍もすり減らすんです。そのつらさを分かってくれとは言わないけど理解してくれたいじゃないの。22年一緒にいるのになんにも見てない。ぎりぎりのところで正気を保ってるのに。歩くのがストレス、チャイムがストレス、他人の声がストレス、パソコンはストレスの塊、etc.etc. もう死んだほうがましかもしれない。なにが楽しくて毎日生きてるのが全く分からない。

九月十四日

本当に1Cが大崩壊している。教室の半分以上が教科書を机に出していない。授業中に大野先生が入ってくるような事態。登用試験の話が出ているときにこういう事態って本当どうしよう。あいつらみんな文化祭で不慮の事故が起こって普通学級に通えないくらいの不具になるとか死ぬとかしてくれないかな。勉強する気ないやつは高校こないで働け。おまえらを大学なり専門に押し込む手間と押しこまれた大学・専門の迷惑を考えろ。

時間割をなんとか組み終わったものの自信なし。何をどう見てチエックすればいいのかもわからない。選択科目が多すぎる。なんでこんなに複雑にしたがるの。そこまでするような頭の生徒じゃないだろ。文理とかいうけどどっちも同じような頭のつけてるじゃん。まだ週の半分にもいかないのにクマがすごいし疲れが半端ない。まだまるまる一週間勤務が残ってる。いやだいやだいやだ。

給湯室掃除のとき藤本先生が何か言っていたが、あまり耳に入らなくて生返事だった。どなり声と猫なで声の落差が激しすぎて正直あのひと気持ちが悪い。というか教員になって改めて思ったが、私やっぱり怒鳴る人嫌いだ。指導部会が終わる前に帰ろうと思ったのにタイミングを逃し、七時を過ぎても帰れなくて誰一人まともに取り組んでいない全校朝リスニングの問題印刷までやる羽目になった。プログラム印刷というものを覚えてひとつレベルアップした気になった。・・・地道すぎる。

家に帰ったら宏美のみやげの甘い白ワインが開いていて、それがグラスにいっぱいいたらこディップのクラッカーと鶏肉と野菜を煮込んだものと冷凍すると言いついていたはずのカレーのあまりが夕食に出た。全部食べてもなんとなく満腹しないのをむりやり抑え込んで風呂。つらい。なんにも食べないほうがまだ。やっぱり夕飯は食べない生活にしようか。ちょっとたべるくらいならたべないほ

うがらかなのに分かってもらえない。昼から九時間何も食べないほ
うが変なのに分かってもらえない。一日三食ってノイローゼみたい
に思いこんでるあいつら。

コテが熱いまんまになってて注意されたし。触るなよ。部屋はい
るなよ。燃えねえよ。あーうぜえ。

もうほんとに逃げたい。

九月十七日

九月十五日。木曜日は忙しい。それにしても最近食欲が酷くてお昼になるのを待ち切れずになにかしら口に運び続けている。汚しちやいけないものもあるのにもっともなくてどうしよう。向かいに座る上村先生が気になって仕方ない。食べ方汚らしかったり音がしていたりするだろうか。最近今まで以上に態度がよそそしい。国内一緒なのにやだなこのままじゃ。この人も阿部先生と同じで自分ひとりでもぶんぶんすすめちゃう。こっちはおいてけぼり。そりゃあなた方一人でやったほうが早くて確実なんだろうけど、わざとこっちにわけわからなくしておいて急に話振ってきたりするのは本当に腹立つ。藤本もだ。私打ち合わせ中欠席電話の対応してたし、そうでなくても担任が学年活動でどこに集まるかとか担任しか知るわけないのに私に大声で聞いたりするのやめてほしい。ああやって人を第三者から見ても間抜けに見える方法熟知してる人って性質悪い。阿部先生のお得意の時間割組み、やっぱりデータあるんじゃないですか。なんで「時間割見れば組めるでしょ」とかいうかな。授業とかがリキラムについて熟知してなきゃ組めないっつーの。三年の特選特進なんて授業一個ももってないし理系に至っては二年生でも接点ないんだから。経営情報はもう全く未知だし。阿部先生だって一之瀬先生からデータもらって組み換えたらしいじゃん。なんでそう言ってくれないのかな。

ほかにもいろいろあって久々に過食で千円以上使ってしまった自己嫌悪。何回もレジに並んでみっともないっいたらありゃしない。生徒に見られてたら詰むのにやめられない。夜中こっそり下に降りてウォツカをたらふく、フルーツジュースで薄めて飲んだ。にんにくのしょうゆ漬けをパクパク食べた。明日が永遠に来なければいいのに。

九月十六日。学校も何をしたらいいのかわからず、でも暇そうに

してるわけにもいなくて、お尻の座りの悪い一日だった。1Cの授業を一つやらずに済んだのがラッキーだったくらい。また食欲がお化け。またヤオコーでアイスとカップラと半額だったもつちりチーズどら焼きとでリバ。家に帰ってキムチと赤ワインを一本空けた。また親がふたりして私に怒涛の勢いで炭水化物を食わせようとしてきてうざい。私はビタミンとタンパク質だけとりたいの。カロリーのお化けの炭水化物は意識しなくたって採れちゃうしほんとほっといてほしい。自炊したい。

九月十七日。ほんとになにしたらしいかわからないイライラな一日。しかもおやつを切らしてそれもイライラ。午前中は2Aの女の子にいられてもらってミサンガ作りを一緒にやって、午後は3Eに顔を出して一緒にセロハンを切つて。生徒と接する時間が多いとそもそもあんまりちゃんとしてない猫がはげれて嫌われそうで怖い。人と個人的にかかわりあいたくない。私を好きになる人なんてそれなりの人だし、そもそもそんな人を見る目のない人とはお付き合いたくない。

昼時わたしを露骨に無視するタバコとアイプチの名古屋あかりが藤本先生に怒られていて愉快だった。でもなんで尊敬も慈愛も抱いてないらしい顧問にあんなねちねち怒られて、それでもいつまでも部活に居座ってるんだろ。マゾなのか。

生徒指導で思い出した。1Cの一部がバイクやってジップオイルで看板燃やして拳句に仲間の脚もローストしかけたらしい。二人進路変更。言われてみれば発覚日の授業で俺たち学校追い出される予定だからとか言っていた。ついでにクラスの三分の一学校やめるとかも言ってた。馬鹿だね。追い出されたんじゃないやなくて勝手にでていったんだよ。分からないかな。あんなたちが力任せに暴れて大人たちみんなが必死で引つ張り上げようとしていた命綱を切り離しちゃったんだよ。それにあんたたちと一緒に暴れまわってるように見えただの子もその子もみんな内心じゃそんなにあなたと同調してないし、ほんとのところ親にも先生にもお友達にも愛されててそんなに

自分が不幸とか思つてないよ。あんたたちが愚痴言つたりするの聞いてもあー自分はそれに比べて恵まれてよかつた！てなところだよ。見てみなよ。一心同体のつもりだったんだろうけどレールから外れたのは結局あなたとあなただけだったね。他の人はやっちまったなつて思いつつても普通にあそこに居続けるし普通に人生を続けていくよ。あなたたちのことなんて三日で忘れる。さようなら。ついでにいなくなればいいのにつて生徒ほかにもいたけどまあそんなに上手くないか。

「あの辺」の女子が援でもやつてなおらない病氣うつされて妊娠すればいいのに。山に捨てられればいいのに。ブスのくせに自信满满的の女つて顔面すりおろしたくなる。おまえらが就職する気なんじや介護施設にも保育園にも絶対あずけたくないな。子供の何を知つてるつて言うんだろ。おまえらに子供の世話とか絶対無理。なんで自分の面倒見れない人間に限つて動物とか年寄りとか子供とかより面倒なもんの世話焼きたがるんだろーな。

明日明後日マジ憂鬱。食欲がいつまでたつてもお化け。早く仕事辞めたい。

九月十八日

基本的に素人の見世物をみていて面白いと感じる奴はいない。高校の文化祭なんてのはその最たるもので、セックス相手を探しに来た猿か、自分の劣等遺伝子のなれの果てを見に来た親か、その当人たちくらいしか楽しくない。というよりむしろ自分にとっては拷問。なにをすればいいのかさっぱりわからないし、暇そうにしてちゃいけないし、どこにもかしこにも人がいるし、なにより 祭りとか 大会とかいうものは私は全部嫌いなんだよ。

英検申し込みがどう数えても一人足りなくて、確認したら申し込んでいない子をなぜかチェックしてしまっていた。わけがわからない。福居先生もあきれはてらしいし中野先生も表情にこそ出さないがなにを考えているやら。というか私はいまだにあのひとが相手の面接を思い出すと赤面しかける。

あんまり深く考えたくない。生きとし生けるものすべてがうざい。明日朝起きたら世界中が死んでればいいのに。もういや本当に。ああああ

九月二十一日

九月十九日。文化祭二日目。ほとほと愛想が尽きた。文化祭はダメなやつは結局なにをやってもだめだなあとしんぶん分からせられたイベントだった。一日ずつとろろろ歩いてくれた。うるさいし汚いし臭いし手持無沙汰でいらいらするし。なんで大学を出てまでこんな底辺な仕事をしていなければいけないんだろう。そんなに私悪いことしたかな。結構真面目に頑張ってきたと思うのに。あんまり疲れすぎて1Cの迷路には入りたくないとはつきり言ってしまった。別にいいけど、いや少しまずいか？あつくてくれたで休憩所で涼んでたらその生徒にいつまでいるのとか言われてイライラしていたせいもある。ほんとあいつら屑だ人間の顔をした生ごみでまともに生きてる人間のガンだ。十把一絡げでくだらない。

いらいらは後夜祭でピークをぶつちぎった。みんな疲れてるのにまあ段取りの悪いこと。挙句待たせて待たせてその出し物が全部酷い。軽音のボーカルのへたくそ加減なんかもうチャラにしてやってもいかなってくらいお粗末。あんなのを学校の後夜祭程度とはいえ披露して恥ずかしくないってのはもう一種の才能だと思う。恥の概念がない人間って近くにいられるものすごく迷惑で死んでほしいけど本人は楽しそうであまにうらやましくなる。しかしひどかった。そのあとかたづけがまだらだら長いし生徒会の仕事は手伝っていいのかわいのか分からないしとにかく疲れた。また阿部と福居れた自分たちだけで納得してすいすい現場仕切って、まあそれだけならいいけど、そうやっておいて後であいつ手伝わないとか言ったり疲れたとか言ったらめっちゃくちゃむかつく。

ミーティングが終わって帰り道はひたすら解放感に満ち満ちていた。し明後日の片付けも憂鬱だけどとりあえずは明日のウエスティンだ。家に帰ってもハイテンションで幸せだった。やっと地獄から解放されたんだから、これはもう祝うしかないところだ。

九月二十日。母が実家に行くといっているので早めに家を出て、大宮のマックで軽く唄ってから恵比寿に行つてアトレとかを見て回つた。天気さえ良ければ代官山のほうへ散歩に行こうと思つていたのだが台風が近づいていて雲行きが怪しかった。私が待ち合わせ時間を一時間間違えていたのに加えて泉がなぜかガーデンプレイスにくるのに迷つたせいですこしぐだつときて嫌な予感がしたがやつぱり終始イライラさせられっぱなしだった。どうせそんなに食べられないんだからシェアして食べようというのをこれくらい食べられるしと露骨に嫌そうにしておいて一時間もしないうちにおなかいっぱいになつて具合の悪そうな顔をしているのでむかむかした。だからいつたじやないか。本人いわく朝や昼は食べられなくて夜おなかが減つていくらでも入るのだという。だから太るんだろ。ほかに飲みたかない種類のドリンクを勝手に頼まれたり、並べられているナイフフォークをどこから使うのかなどマナーを気にしているようなわざとらしいそぶりをみせてきたりいらいらいらいらいら。ホテルのレストランにデニムのショートパンツとサンダルをはいてくるような成人女性にマナーとか口にしてほしくないつづの。食べ終わつてからもちくちく嫌な感じだった。まだ立っているだけで汗をかくようなころに構想を練っていた漫画が結局まだ1ページもかけていないらしい。絵も描けないんだからとりあえずペンを入れてみれば練習にもなるのにいったい何をやっているのか。見せるわけでもないのにアドバイスもなにもできないし、この期に及んで公務員はいやだとか言っている。おまえが嫌がらなくても向こうが取らないから安心するべきだ。この後どうするかというときもどこかに座るでもなくずつと突っ立ってたまに「とかもどうかなー、なんて」と聞えよがしに言ってくるが、決して自分で決めようとは思はないのでひたすらスルし続けた。結局飲みに行くことになつたがそれでもぐだぐだぐだしてなにがしたいのか分からない拳句に1500円以内で雰囲気の良いところで酒が飲みたいとかぬかしやがる。サイゼリヤでもないと無理だけどサイゼは・・・とかいつてる

し、300円均一居酒屋に行きたそうだが、あそこは合計すると別に安くもないうえにまずいしうるさいから嫌だった。結局わんに行った。平日限定。飲み放題が777円に御通し400円。一人一品以上のオーダー。結論から言うと酒はおいしかった。陶器でビールが出てきて、カクテルもおいしいし、サンザシのお酒なんてはじめて飲んだ。甘酸っぱくてすこし苦味がある。特によかったのが、わかめしか入っていないものとはいえ味噌汁の無料サービスがあったことだ。これが塩分になったし、二人ともおなかは一杯でケチなので焼き鳥を四本頼んで終わり。会計は二人で三千円だった。ここで帰ればいいのに酔った勢いでカラオケに行ってきた。案の定相手は疲れてグロッキー。疲れるなら迷惑だから帰れよ。不機嫌そうにして可愛いタイプか鏡をみてよく考えてみたらいいと思う。けだるげにしているつもりかもしれないが、完全にふてくされたはずだから。

ほんとに泉といると「ディスコミュニケーション」って感じがする。これって多分私もほかの人から思われてることだろう。極悪ではないだけに余計性質が悪い。

九月二十一日。台風で酷い風と雨。予定表通り八時半に二日酔いがんがんの頭で行ったら誰もいない。練習は九時からって、聞いてない。もうなにがどうなるかと九時に来るようにしようか。どうせ終わるのも終わる時間に終わらないわけだし。適当言って十時に抜け出して大宮のそごうの上の中華屋で四ラウンドくらい食べて吐いてを繰り返した。本当に私はどうしようもないなと感じた。社会の底辺になって気分。ずいぶん吐き残った自覚はあるけど今ようやく体調が戻った。ああ明日行きたくないな。外は台風で風がガンガン吹いて雨が滝みたいに降ってる。

九月二十三日

九月二十二日。文化祭片付けと前期終業式。また原票に不備があった。公欠の生徒を欠席でつけてしまっていたらしい。藤本が私の声真似をしてきてむかつく。私だってもうこのオドオドモード止めたい。自信ない時ってものの言い方とか目線とか、自分で自分が気持ち悪い。人に上手く話ができなくて実際の三割増し以上に間抜けになる。

バトミントン部の女子二人がとうとう辞め・・・すはずが強引に休部にされる。去るもの追わないって言ってたその口で今度はどんな屁理屈こねるつもりなんですか鈴木先生。生徒が何をいつても「嫌なことがあつたらすぐ物事をなげだすのか」とそこに持つて行きたがる。なんか「すぐ」ではないといったら分かるのか。私も何度も相談したし直接の訴えもあつたのにすっかり忘れてる。しかしいいよな生徒は。いやならやめられるんだから。

牛乳を買って甘いものを我慢したのに結局体のためを思って買ったアーモンドを過食嘔吐してしまった。こういう生活があと何年続くんだらう。とても耐えられない。つらい。苦しい。全部投げ出したい。氣力がわかなくて酒を買いにさえいけない。鬱。

九月二十三日。ココスのバイキングで過食しようと思ったのに体がつらすぎて無理だった。舌が荒れて、しかもパンパンに腫れて、とても食べ物を食べる気分じゃなかった。まあ半日したら完治してるんだけど。十一時まで寝こけて、そのあと祖母の家に無理やり連れて行かれるまでうとうととしていた。なんにももらえないからとにかくいつまでも眠っていたい。サバランはあんまりおいしくない。甘いだけ。祖母の家は昔と違って何から何まで汚くて気持ち悪い。ケーキを食べてる横で痰の絡む咳をされたり、不幸のうちに死んでいた年寄りの話を何回も何回も聞かされたり、わたしもはたから見るところ見えるのかな。小さい頃は気がつかなかったけれど、お

ばあちゃんって他人と自分を不幸にするひとだ。せめて早くみつちやんがなくなつてしまえばおばあちゃん単体ならうちに来てくれてもいいけど、おばあちゃん+みつちゃんじゃ我が家が背負い切れる不幸ゲージを簡単に振り切つてしまつたろう。ただでさえ私つていう疫病神がいるのに(でもうちほどモラル意識厳しい家じゃなければわたしこんなに責め立てられないと思う。そもそも人殺しだつて五年六年で娑婆に出てきてなんのわだかまりもなく社会復帰してるのになんで私はこんなに長いこといつまでもいつまでも忘れさせてもらえなくて苦しまなくちゃいけないんだろう。酷い不公平だと思つ。要するに世の中は反省しなくて顔の皮の厚い奴の一人勝ちなんだ。さらに声がおつきいとなおよし。あたしに子供が産まれたら他人のことなんかなんとも思わなくてあたしとその子自身だけ大事にする子に育てる。それこそが幸福への道だと思つ。)

九月二十六日

九月二十四日。土曜日。学校に三時間だけ行って夜は件の彼とお酒。昼間は教育補助員だか何だか元はなさきとくはるの先生さまがくそつまない話を九十分もしてくれたおかげで腕の内側が内出血だらけ。帰り際教頭に今日の講話はどうだったときかれたけれどもさかふねこいでたの見られたのか。本採用の試験近いのに。もうやだ。

おやつ食べすぎがたたってお昼ろくに食べられず、チョコアイスを買ってフードコートで食べて、一時間だけ授業の予習をして、第四文型危ない自分に愕然として(どうしてもbuy系とgive系の違いが覚えられない)、そのあとはブラブラショップを見て回った。藤井リナが宣伝やってるゴスロリスレスレのなんとかってブランドに無性に心ひかれる。そろそろ痛いってあれば！ダチュラも気になる。セール価格になったら一式買いたいな。若いうちに着られる服を着ておきたい！

夜はこの前激安飲みを体験してしまったせいで三千円がやたら高くもつたいなく感じた。おごるからカラオケ行こうと言われたけれどすっかり気分が冷めて、それに吐き気がしたので早々にお別れした。家に帰ると不審なおい。ああいやだ。

九月二十五日。遊びに行く嘘をついて大宮ココスでひたすらリバ。6ラウンドくらいしてそうめんもクロワッサンもカレーも炊き込みも唐揚げもハッシュポテト(しらふじゃ食べられないけど最高吐きやすい)も気が済むまで食べてミルク系ドリンク並々で吐きまくった。なんて思われようと知ったことか。そのあとドコモの趣味の悪い銀色の携帯を衝動買いで、家に帰ってから近所のAUショップに行つて醜態をさらした。さあ反省しようか。

夜また白飯攻撃が酷くてキレたら收拾つかなくなってひどいことになった。そのあとビールの500と部屋に隠してたズブロッカを

御猪口でくいくい飲んで、死んだ。思い出したくないけど、とにかくもう耐えられない。荷物検査も夜間一階降りるの禁止も勝手に部屋空けるのも普通だ普通だっていうけど、それは「普通」じゃなくて「二人の好み」だっつーの。頭がパンクしそう。

九月二十六日。AED講習をすっかり忘れてスカートはいて行ってしまった。九時五時なのに上村がいつまでも帰らないから立場的に自分も帰れなくてイライラした。自分で仕事抱え込んでいて大変そうな顔するとかマジ迷惑。挙句変な病気発生させたらしい。脳にでも回ればいいのに。面白くない。全部がむかつく。はやく休みたい楽になりたいつらい思いをするのはもううんざり。こんなことこでしか言えない。

十月四日

九月二十七日。火曜日。

九月二十八日。水曜日。長い。

九月二十九日。木曜日。本当にひどかった。しんだほうがまし。

九月三十日。金曜日。つらい。日記が書けない。

十月一日。久々に六時に帰れた。

十月二日。大宮のココスでまた過食祭り。すっごい嫌な客だ・・・
そのあと加茂宮のドンキでお菓子とお酒を大量買い。

十月三日。やる気が出ない。ミスも連発してる。セロテープカッターの件でまた阿部がこつちを間抜けに見せる裏技炸裂させて超絶にうざかった。いらないうってそれだけ言えば済む話だろ。もう今後一切あいつにかかわることは言われたことしかやらないことに決めた。あたしがなにかをきにかけたって無駄だって分かってたつもりなのにまたやってしまった。自分にも他人にも一切期待しちゃだめっていい加減まだわからないかな。

九時過ぎまで仕事していたら守衛のなんとかさんが全員にあっつかいカフェオレとミルクティーを差し入れてくれた。職員室の給湯室にココアが入った。

十月五日

家の最寄り駅に斎藤美咲がいた。あからさまに嫌そうな顔をして避けてしまった。ごめんあんたレベルのブスはちよっとむり。

JICAでは昼食時にちよいちよい失言があつたくらいで特になにも問題は起こらなかつた気がする。しかしなんで私が口をはさむと微妙な空気が流れるんだろう。黙つても気まずいし。上村がなにかんがえてるかわけわからな過ぎていらいらする。

帰り恵比寿であんまり乗り気じゃないにもかかわらず予約がもつたいないとテラスでケーキを食べまくり吐きまくつてきた。もつたいないし甘いしあんまりおいしくなかつた。適量を適度に食べられるようになりたい。むしゃくしゃして夜アルコールもずいぶん飲んでしまった。ああやだ。

十月八日

十月六日。木曜日。禅寺で座禅& a m p ; 食事指導。新宿乗り換えをなぜか渋谷と誤っていて遅れる。恥ずかしすぎる。座禅は股関節が痛くて死ぬかと思った。坊主の説法も全然面白くない。言っていること全部配られたプリントに書いてあるから、それ読むから、いいから黙れ糞坊主、と何度叫びそうになったかわからない。船を漕がなかった自分を全身全霊でほめてやりたい。食事指導として出されたおかゆも塩気が足りなくて不味い。挙句、食べ終わったスプーンを自分でなめてきれいにするという。全然きれいじゃありませんから残念ー。ねぶり箸は日本ではかなり高度なマナー違反でございませぬのよ。時代錯誤なことさせるな。極めつけは食べ終わった容器の中にたくあん（これも塩が足りない）を入れお湯を注いでなま塩辛い生ぬるいずるずるした液体を飲まされたことだ。なんつう汚らしくて気持ちの悪い文化だろう。ううっ。

新宿で待ち合わせしてカラオケに行った。散々迷ってシダックスに行ったら汚い部屋に案内されたので私が軽くキレて（内心で。表面上は穏やかに立ち去った）結局機種はしょぼいけれど南口の歌ひろに行った。部屋はこっちのほうが絶対いい。価格は半分以下だし大宮の「わん」にまた行って酒を飲んだけれど、その前にもひと悶着あった。サブウェイかバーキンで腹ごしらえしてから行くこと思ったらどの店に行っても食べたいものが全然わからなくなってしまう。相手は気にしないふりをしていただけで内心どう思っていただろう。その前に電車で食べ物と罪悪感の話とかしてしまっただけ。この人は私の異常性をどれだけわかっているのか。たまに心配になる。これがもし全部わかった上での許容ならすごく心の広い尊敬すべきひとだと思っただけで、絶対分かってない。何一つわかってない。絶対童貞だし、若干仲間内でも馬鹿にされてそうなおーラを感じる。ぬるぬる育ちすぎ。汚いものとか避けて歩かなきゃいけないものが

分かってないしすごく心配。いつか見限られそうな気がする。私がこうやってちよっぴり下に見ている相手から拒絶されたら、私は発狂するかもしれない。「わん」では心いくまで飲みまくった。一人ワンオーダー制のはずが注文を忘れられたのでやっぱりかなり安く上がった。サンザシ酒最高。ウイスキーはやっぱあんまり好きくない。しかし酔った。風呂場で戻して翌日こっぴどくおこられるはめになる。たしかに朝起きてからも自分の手と口どぶ臭かったもんな。吐いた時のおいが結構違うのでたまに驚く。あの土臭いような泥臭いようなのは一体なんなんだろう。普段は完全に胃液臭なのに。

十月七日。金曜日。朝むしゃくしゃしておとといバイキングから盗んできたパンを食べて、ポッキーも食べ、カフェオレ飲んで吐いた。朝一にぱくついた味付けのりがいつぱい出てきた。気持ち悪い。今日のげるもどぶ味。ケーキ類のいいところは吐くとき気持ち悪くないことだ。ばかみたい忙しい日だ。一限、二限が卒研で三限は国内のお守に行かなきゃだし、四限は一年生。昼は国内の子たちのSHRで五限一息ついたと思ったら六限三年生。音楽室掃除でそのあと自習課題とか週明けからの用意をしなきゃいけない。胃が擦じ切れそう。結局英会話の予習とかなんにもしてない。どうしよう。五十木先生はちよっぴり英会話できるらしいし変だったらばれる。英語教師って肩書背負って外人と会話とかなんの罰ゲームですか。あたしがこんな底辺校にいることから察しろよ。コミュ力語学力零なんだよ！こないだの面接だって・・・泡泡。

帰れたのが結局八時近く。ヤオコーで明治のパルムもどき買って食べて、カツオもひとさく買って部屋で塩ふって隠れ食いして、ビールのでっかいのを飲んだ。夕食にカレーも食べた。吐かないで寝た。いいんだ週末だし。明日のチョコパフェ楽しみ。

十月八日。マロンパフェを頼んでしまって後悔してたらやっぱり

後悔した。あそこはチョコレートを食べなきゃつぱり。どこにでもありそうな味で感動なし。栗あんなんで大体想像つくもんね。逆に安いのもそこそこおいしい。理絵ちゃんは相変わらず可愛くて刺激のない女の子だ。ちよつと退屈だけど穏やかな気持ちになれる。あたしと一緒にいて楽しいのが非常に不安。ついあたしはおとなしい子相手だと自分のことばかり話してしまう。いろいろ秋服とか見て回って、ドトールでお茶した。あたしはまたケーキを食べて驚かれたけどあんなちよつぱいパフェ、カロリーは足りても歩きまわるとおなか減る。今度から混んでもいいからパフェはおやつにしよう。すごくしょっぱいものが食べたい。しょっぱいものモードでなぜかケーキでおなかをくちくちくしてしまつたら、正体不明のわさわさが沸いてきてせつかくあつた理絵ちゃんを帰させてしまった。献血ルームでお菓子とドーナツをばくばく食べて、そのあと閉まりかけのデパートに駆け込んでサンプル乞食をしてきた。乞食も大変だ。太もものうらにびっしり汗をかいた。お金は使わなくても人として大事なものをなくす気がする。こういうことを臆面もなくやれる人っていいか悪いか別として大物だわ。きれいな人からただでも貰うの罪悪感。

でもファンデは単価も高いし使い切るのに時間がかかるし後悔したくないから仕方ない。マツトさつぱりとツヤしつとりといくつか貰ってきた。これから試すの楽しみシューウエムラのクレンジングも楽しみ。三連休終わってほしくない。あああ。

十月九日

清水公園に行った。朝、なぜだかめっちゃめっちゃ早く家を追い出されて七時の約束の三十分前に羽貫駅に着く。ミニストで時間をつぶして戻るも来ない。いつまでたつても来ない。いい加減肌寒いし今度はローソンに行って漫画を二冊読んでも来ない。寝坊してた。今日は全部おごるというのでありがたくブリトーと駐車場代と入園料と二千円の焼肉食べ放題とドリンクバーをおごってもらった。

アスレチック自体は懐かしくて楽しかったけれどとにかく子供が多くてどれも待つのが待たないのといった感じ。八子の巣は一時間近くかかりそうだったので二人とも嫌になって辞めた。子供みんな死ねよ。

水上コースで水につかった。水に浮いた足場を跳んでいくもので、絶対いけると思ったたら足を滑らせて膝を強打して（今赤黒い）あれと思ったたら足場が斜めつてずぶずぶと足場に肘をつけて腰まで漬かってしまった。自分はもう少し動けると思っていたのでショック。始める前は着替えを用意する彼を用意すぎと笑ったりしていたのにそれを借りる羽目になった。なんとも間抜けなファッションになる。スニーカーって時点でどんびきだつてのにマジ勘弁。

お昼は伸びに伸びて三時くらい。坂東太郎か彼お勧めの焼肉キングと二者択一にしたら、倍の値段するのに焼き肉をチョイス。そんなにうどんが嫌いなのか困った。こっちはコメよりパンよりうどんだつていうのに。普段2500のところ日曜祝日限定のランチがあつて2000で済んだ。噛み切れないものが多かったけれど野菜をたくさん食べられたしおなかがすいていたのでおいしかった。前半飲むように食べてしまった。彼が白米を大盛り二杯食べているのは引いたけど。

そのあとダーツに連れて行かれるが自動ドアをくぐろうとしたところ矢作を見つけて逃げ帰った。ばれた気がするいやだなあ。確か

にあの辺やつらのホームだ忘れてた。いやだいやだ。あー

ついでとばかりに業務スーパーでアーモンドお買い上げ。今日は母いないから持ちこめるはず。

ココスで雑談して帰ってきた。なかなか帰らせてくれなくて困った。帰りにマルエツで明治チョコレートのアイスを買って食べて、朝の残りのチョコぱん、シーフードヌードル。昨日理絵ちゃんからもらったチューリップケーキなるフィンランシェみたいなものを食べて吐いた。体重は53.2だった。五十キロきりたい。とにかく細く細くなってみんなに心配されるようになりたい。こんなでつかつたらどんなにかわいそうでもかわいそうに見えない。詐欺だわ。明後日が死ぬほど憂鬱。明日も出かきなきゃ出し。あーあー。頼むから休ませてくれよ。金が続かない。

十月十五日

十月十一日。ランゲッジ・ヴィレッジ一日目。行きのバスで相棒（五十木先生チョイス）の劇場版？を見た。いろいろ衝撃。黒人の女性ALTYーサンがともいい先生。ジェフはクールすぎてだめだ。うちの生徒は全然喋れなくて日本語を連発するので他の客が非常に迷惑そうにしていた。でも引率者もみんな日本語しかかたくなに話そうとしないししょうがない。麻野松本が意外と他女子をフォローしてくれる。特に松本は頭の回転も速いしなんで不登校なんだろう。

夕飯のハンバーグは冷めてて不味いし量も少なくて、挙句に生徒がみんなALTYから逃げるせいで私が喋らなきゃで時間もなくておなかがすいて仕方がなかった。夜ビールを三本ごちそうになってほんとにありがたかった。おかげでカマキリの死体がある部屋でも爆睡できた。朝八時起床って普段より楽だわ。なんといっても同室のいない気楽さ。生理始まったけどパンツ半分おろしたままナプキンとりにもいけるし。一人最高。

十月十二日。午前の三時間の授業で萩原斎藤宮川が完全にダウン。萩原斎藤はどうみても英語いやさの仮病。いらいらするがどうにもならん。特に斎藤美咲は正直ほんとになんであんなにいらいらするんだ。不細工でデブって時点で生きてる意味ないけど、そのうえ頭が悪くて根性無しでぼそぼそしゃべるとききた。これがもう少し変な方向にハイスペックになると泉になるわけか。頼むから死ねよって気分になる。部屋にありがりこもうとされて鳥肌が立った。他人と距離測れないから苦手とか言われるんだぜ、わかる？わかんねーだろうな。萩原も萩原で恋愛観が気持ち悪い。でふふ、とか笑うし不気味。麻野松本のえぐい下話のほうがなんぼかました。宮川はごくごくありがちな遅咲き中二病なだけでなんともない。はやく復帰しな。がんばれ。私は陰ながら応援するよ。

午後はサフアリに行った。やることなくて本当に楽。夕飯のカレ―は脂っぽくて、まずかった。ビールと、今日はカップめんもいただいて自室に帰ってから盛大に吐いた。明日やっとな帰れる。

十月十三日。日常に帰るのが惜しい気がする。普段よりらくだもん。食事と風呂と衛生の問題さえなければゆったりのんびり。やることあんまないし。競争相手もいなくて気楽。

最後の最後に英語二分間スピーチで地獄を見たけど結構早くもどつてこられた。びんとするとアボカドの夕飯がおいしくてカロリーとつたのに吐かないで満ち足りた気分寝床についた。

十月十四日。金曜日。もうね。もう。死ぬかと。なんにもいいたくない。過食衝動ひどいし、生徒はモンスタ―度増してるし、気分悪いし髪は跳ねるし明日は学校説明会。長い長い長い。母に当たり散らした。さつまいもの風味のふんわり食パンを買ってきて。マーガリンも買ってきて、過食嘔吐した。気分は最悪。二日連続歯を磨かないで寝た。

十月十五日。朝から大雨。タイツも靴もぐしょしょになった。英語演習はもうとりかえしがつかない。英語？は模擬テストをやったら静かで気分がよかったけど、出来栄がさんざん。頭痛い。福居先生が旅行中に誕生日を迎えたらしい。くまのペンケースのお土産も貰っちゃったし、いつかどこかで返さないと。プレッシャー感じる。

説明会が始まる前でどこ何をしていいのかわからずいらいらいらしたがるんとか乗り切って、今。メルシヤンのロゼを飲んで気分悪くなってくらくらしながら日記を書いている。考えたことたくさんあったのにいざかこうとすると忘れてしまう。すぐれた文学者として文章力以上に記憶力がすごいんだろう。

あたしはなんでこんなに覚えるそばから忘れていつてしまうのか

十月十九日

十月十六日。日曜日。食べたくもないのになんだかなぜか大宮のココスで過食嘔吐三昧。焼きたてのあつあつふわふわクロワッサンがやばいおいしくていつまでも食べていたい。食べるのってオナニーだと思う。

昼家に帰ったら（部活ってふりしてた）母と妹がみっちゃんとかおばあちゃんのことだけんかしていて、私はその間を縫って発泡酒と昨日の残りの不味いワインをカロリー巨峰で割って飲んでた。宏美がいなくなっただけから飲み続けた。アルコールが入った私は無敵なので母とわだかまりなく話して、そのうち二人も普通になった。ずっとこうしていられたら平和であわせなのにな。

十月十七日。いやだいやだ月曜。おなかがすいてすいて仕方がない。少し異常。この日は一度もパソコンを触らなかった。帰るころ携帯を見ると異常なくらい着信とメール。すべて母から。ぞつと嫌な予感がして電話をかけると伊奈のおばあちゃんが倒れたとのこと今から手術で終わるのは十一時過ぎる。宏美と連絡をとってといわれた。まさか、と一瞬思った。みっちゃんならよかったのにと少し思った。今お父さんはすごく疲れているからそういう意味でもおばあちゃんになにかあったら嫌だと物凄く思った。お爺ちゃんとおばあちゃんと赤い服を着た赤ちゃんの私が古い方の家の門のところにいる写真を思い出していた。お爺ちゃんには事態がはっきりわかっているのかな。

こんなときなのに、アイスで過食嘔吐してしまった。そのあとアイモンドを買って帰って自室に隠した。これがないと生きていけない。

結局腸が腐っていたもののそれを切っておなかを閉じて事態は完結したらしい。よかった。無事とわかったら、なんかそれダイエツトになりそうとか思っている不謹慎な自分もいた。

十月十八日。朝リスニングの時間を勘違いする。五分早く始めて五分早く切り上げてしまっていた。授業も本当にぐだぐだ。あいつら全員くびりころしてやりたい。鈴木さやかはひとりで勝手に死ぬ。触りたくもない。この日もやっぱりおなかがすいておなかがすいて、おやつをのべつまくなし口に運んでいた。ストレスもあるけど、過食で胃が大きくなってるんだと思う。我慢していれば収まるのに我慢できない。嫌いな飴玉まで食べてしまってる。太らないからだがほしい。海外の反省会になぜか参加させられて意味のないぐだぐだした時間を過ごした。正直死ぬほどどうでもいい。あたし契約だし本採用にしてくれるなら頑張るけど、本当早く教えてくれないかな。生殺しだよ。いらいらしたまま明日の全校リスニングの準備も終わらないし、結局最後までいて、福居先生に送ってもらってしまっただ。しかし本当にあたしは会話ができない人だな。なんかもうひとりだけ違う言葉ではなしてるみたい。みんなが知ってるルールをあたしひとりだけ知らないみたい。つかれた。まだ火曜日だなんて。

十月十九日。授業を頑張ったら死ぬほど疲れた。反応がなかったらって思うプレッシャー。生徒のころは一度も感じなかった。あたしのお話を聞いてくれなくなったらどうしようって死ぬほど怖い。子供が怪物みたいに見える。じゃなきゃ知的障害者とかみたい。こわくてこわくて仕方がない。定時になるのを待って電光石火で帰った。三年の先生方とか忙しそうだけど気にするもんか。あたしの仕事はないし、明日明後日で死にそう。十一月を乗り切れる気がしない。休みなさすぎしんどすぎ、もう授業やりたくない。声出すの疲れたよ。稼いだわずかな金はトイレに全部流れちゃうし、でもそれがないと精神の安定が保てないし。カウンセリングに費やすよりましなのかな。いまの時間を貯金しといて、思いっきり壊れて、気が済んでから今の家に戻りたい。破壊衝動が物凄くていつ何をしてしまうか予想がつかない。怖い

十月二十一日

十月二十日。英語？の時間にあいさつがあんまりにもなつてないのでなんかいかやり直しさせたら矢作がキレた自分はちゃんとやつたのにふざけんなどというのだがこつちがふざけんだ。おまえのいつもの態度をかんがみたら百回のうちたとえ一回二回まともなやつてる日があつたとしたつてノーカンだんもん。死ねよ。今考えてもイライラしてくる。おまえがどうか関係ないから。みんな押し並べて屑なんだからせめて始業の挨拶くらいまともによれよ。馬鹿は繰り返すしか覚えるすべがないんだから何回でも単純動作繰り返し返してろよ。ほんつと頭足りないだけじゃなくてめんどつくせえ。あんまりきんきん叫ぶから耳ふさいだらもう大喜びであおつてくるしどつかおかしいんじゃねえの。男のくせに情緒不安定とかまじきもい。なんか雑種の犬みたいな顔面してくせに勘違いしてるんじゃないか。あとおまえ気づいてるのかわかんないけど、男でその身長はやばいよ。中村みなみはあれでいいらしいけど五頭身だし、子供が不憫だから今のうちに劣等遺伝子残さないよう去勢しとけばいいよね。風呂場で転んで金玉つぶれる。あーうぜえ。

部活もあつてうんざり。つぶれちゃえばいいのにな。球技の一切合財大つきらいだつてはやく公言したい。あーあーあーあーあーあーあーあー

また電気つけっぱなしで寝オチしたし。

十月二十一日。帰りにカラオケ行つてオールしようとしたのに帰れなくて帰ってきてそれでもむずむずして十時くらいに出かけようか迷いまくつたあげく家にいる。着られる、着ても変じゃない服が山のようにある。イライラする。アーモンドの過食が止まらない。お米は怖くてしかたないのにナッツはいくらでも食べられる。おかしいよね。カラオケ行きたいのに休日は馬鹿みたいに高い。お金が出ていくばかりでもういやだ。服も靴も鞆もない。いろいろみつ

ともない。どうしたらいいのか分からない。髪の毛も顔もおかしいやだ。カラオケ行ってお酒も飲みたい。

十月二十三日

二十二日。土曜日。来週からのことを考えるといまから胃が痛い
がとりあえず今日は休みだ。なにか実のあるものを買おうと新宿ま
で来たらなぜか吸い込まれるようにスイーツパラダイス新宿東口店
に来てしまった。ハロウィン前ということとかぼちゃスイーツがた
くさんの店内は広くて開放的過ぎずなかなかのいごごち。ピザが窯
焼きなのとパスタが生めん使用なのがポイント高い。生クリームを
頼んだら特例だともつたいぶりつつ大量に持ってきてくれた。(あ
とで見渡したら結構クリーム注文客いたけど。シフォンとかたりな
いっつーねん)かぼちゃのバケツプリンがとてもおいしい。あと普
段食わず嫌いしてたバナナプディングも表面のかりかりがおいしい。
ハヤシライスもあつたし、どうせ吐くんだからこのくらいで十分と
思っていたが、ここは時間制限があるのだ。そこがかなりのネツク。
しかも70分。短すぎ。最後は店員に睨まれている気がして食べ
た気がしなかった。もっとケーキ食べたのがっかりしながら
ら退店して服を見て回った。どこもかわいいと思うと平気で一万二
万跳ぶ。セールにならなきゃもつたいなくて買えない。食べ物にな
らばいっと出せるのに不思議だ。新宿の信濃屋でイーガーマイス
ターが1480円だったので喜び勇んで買ったらすごく重くて一日
つらかった。

出会いカフェの会員証を処分してしまったのが悔やまれる。ちょ
っとくらい臨時収入になるかもしれないし、飲み物が飲めて座れる
のに。大学生より今のほうが必須だ。あたしってホント馬鹿。三時
くらいになるとどこもかしこも人であふれてどこにも座れなくなる。
どこのスタバに行っても入れなくて最後には半切れになった。

五時ごろ池袋に行って、サンシャインのイングでリュックと赤い
リボンを買った。帰りマツキヨで化粧水を衝動買いた。帰りビー
ルとカロリーを飲んで電車も座れてラッキーと思っていたら大宮で降

りるとき荷物を落としてイエーガーマイスターを落として割ってしまった。何が起きたのかよくわからなかった。そんなに高い位置から落としたわけでもないし、ちょっと耐久性に問題あると思う。それにしても一瞬の油断で1500円がパーだ。しかも思いの半日我慢して持っていたのに。悔しくて今でもちよつと泣きそう。まあ買ったばかりの鞆とか

二十三日。二度寝したら10時半だった。なんか損した気分。朝うごっけいの卵のご飯を食べたけどあんまりおいしいとも思わなかった。甲州地鶏のほぅがいい。やっぱ濃い色の黄身の卵が好き。

アーモンド過食すぎて気持ち悪くなってきたが、素知らぬ顔でおばあちゃんのお見舞いに家族四人で行った。お母さんに赤いリボンが似合っていないといわれて、自分でもそんな気がして、なんでもう一つのかつちりしたほうにしなかつたんだろうって自己嫌悪。そうでなくてもイングあの店で買わなくてもよかつたのに。あーだから買い物って嫌い。誰かに似合う服コーディネートしてほしい。自分では何がいいんだか本当にさっぱりわからない。かわいい！と思っても自分には似合わないし。スタイルは悪くないのに頭と顔がでかいせいで何もかも台無し。最悪だ。

お見舞いでは宏美のコミュニケーション能力の高さを目の当たりにしてショックを受けた。あれでオンオフ入れ返して嫌いなやつにはあんまりなくらい酷い態度をとるんだからますます恐れ入る。シヤンプルでも一人だけちゃっかりヘアピン買ってもらってるし。今家族で一番自由に使える金多いのお前なんだから自重しろよ。本当にむかつく。それにしても病院ついていやだ。いることでかえって病気になるそう。おばあちゃんに対してなんて言っていていいか、どこまで話していいのか分からない自分もいや。空気が読めない。どうすれば嫌われないかとか考えてなくて、それってつまり相手じゃなく自分のことしか考えてないってことで、だから嫌われるのに、どうしてこんなにもどうしようもないんだろう。自己分析はできてるけど分かれば分かるほど問題のどうしようもなさだけが浮き彫りにな

ってどうにもこうにも身動きが取れない。解決できないってことだけが痛いほど分かって、そのほかはどうにもならない。

夕飯はとんでんに行ってお楽しみ膳を食べた。すごくおいしかったのしかつたのに吐くことしか考えてなくて、帰ってから電光石火で飛び出して、携帯の払い込みのついでにチョコもなかと雪見だいふくファミリーパックを平らげて吐いた。ピーナツクリームは買った方がいいが持ち込めなくて自転車かごの中。家帰ったら母入浴中だったし持ってくればよかった。くそ。今吐き終わってまたアイモンド過食中。来年の夏。レオパレスでは食費がいくらかかるかなかなか楽しみ。食べたくない白飯とか食パンとか焼きそばとか食べないでいたら案外かからないんじゃないかとも思うけど、そんなこともないんだろうな。お弁当がないってだけでかなり痛手だし。それにしても明日からいやだわ。

十月二十四日

月曜日。ほんとはよく働いた。英語演習のテストは刷り終わったし、英語？も仕上がった。多分。

今朝長谷川先生に考査袋をくれと言われて自分がどこにしまったのか覚えていないことに気がついた。何分間かパニックになって探して、机と机の間（横じゃなくて上村先生との間）にあったのを発見した。餌を埋めたのを忘れるクマとかリスとかの類じゃあるまいし。しかしこの頭ののっそり具合はクマのほうか。今日はほかにもポカが続いた。英語？、中村みなみの自習課題が見つからない。別にした覚えはないし全員分配ったのに。昼休み、事務から上村先生への電話を保留押したつもりで思いっきり切ってた。放課後考査袋を新井先生から受け取るうとしたら先生も考査袋の置き場所が分からなくなっていたらしい。先生が渡す袋渡す袋ちよつとずつ惜しい。なかなか目的の英語演習がでてこなくて、愛想笑いしているうちに妙なスイッチが入ってしまったらしい。涙で前が見えなくなるまで笑ってしまった。笑いのつぼが低すぎる。あほかと思われるだろう。ああもう。

片付けの当番が回ってきたのだけれど、阿部先生が福居先生をふくちゃんと呼んで私をキノウチ先生なのでなんか他人行儀じゃないですかなんてこれまたあほなことを口走ったせいで一瞬妙な空気が流れた。そりゃ他人でございますからね。ほんとごめんなさい。考えもしないことが飛び出す悪い口なんです。体のどこが悪いって一番は頭で二番目は口です。ほんとにすいません。でも一個のゴミ袋をなぜか二人してゴミ捨て場まで持っていったのはちよつぴり面白かった。阿部先生は宮川を捨ててしまいたいらしい。まあたしかに面倒くさいけどさ。あたしはもう少し話してみたかったな。まともになれる子だと思うよ。

ネットサーフィン時間でヒヤッホーと思っていた卒研の時間に模

試対策をさせられそんな悪寒。一之瀬先生どうやら三年山女性陣に若干うざがられてるらしいけどその理由がちょっと分かった。彼は元優良校の先生だったのだ。多分その学校での流儀をここに持つてきちゃっているんだろう。五十木先生と同じような匂いがする。はきだめの中にいるとなぜかまともな人ほどよくない扱いうけるらしいから。そういうことなのかな。

久々になんにも買い食いしなくて済んだ。まあ今買いだめのアーモンドむさぼっているから同じようなことなんだろうが。ああそれにしてもお金がほしい。パパとかほしい。

十月二十五日

蛭田のKGカード作れ圧力が怖い。いやそれ事務の仕事だよな？
暇な時なら部活やるよりましだけど今テスト期間だよ何考えてるの。
今日はやたらと長い日だった。テストが確認しても確認してもミスが見つかって最後には面倒くさくて刷っちゃった。というか英語演習日付入れ忘れてる空欄のままどうにもならぬ。

それ以上にやばかったのがテスト時間割。監督者と実施教室にミスありまくり。なんで？サーバにあったのそのまんまなのに。わけわけめ。阿部先生は結局サーバにはあげてくれないから私は報告するだけ、結局あのひとがやった。それともどうすればよかったのか？長谷川先生が明日も朝リスニングやるとか言うからその準備も面倒くさかったし。八時過ぎるとおなかが減っておなかが減って完全にグロッキーになってしまった。福居先生が声かけてくれなかったら調査係の私は帰るタイミングをなくしていつまでも帰れないところだった。ギルバートのお礼もあるし今日アルフォートもらっちゃったしどこかでなにかお返ししたいけどどうしよう。タオルとかハンカチとか？はやりのお菓子とか？人づきあい経験少ないと何が何だかわからない。土産物が簡単だけどあいにく私はそう簡単に休みをとれない身分にあるし。

伊奈のおばあちゃんは順調に回復しているらしい。母は土曜日は坂戸、それ以外は自治医大に通う毎日で疲れきっているらしい。病院は確かにいやだ。

りっちゃんからはあれから一切連絡がない。話したくないなら勝手にすればいいだろう。しかしいらつくやつだな。

十月二十八日

二十六日。水曜日。中間テスト前日。もう全部自習。あいつらのことなんか知るもんか。勝手に赤点でもなんでもとれよ。リーディングのクラスの子が江川先生にリーディング聞いてるの見てちょっといらつときた。

帰りが遅くなるだろうとあきらめてたら阿部先生、福居先生が帰るとき誘ってくれた。帰りの車でまた自転車であればいいのに攻撃を受けたけれどもう流そう。絶対自転車とかいやだから。勘弁してください。アーモンドを過食した以外あんまりこの日のことは覚えていない。一週間が本当に長い。

二十七日。木曜日がつぶれるととっても心穏やか。12日の体験入学の授業をしなくてもいいよと言われたのがちよつと怖い。でも住先生も省かれたらしいし本部の方針ってことにしておこう。上村の手足口病のせいでもたまたまいつまでも登用試験結果が分からないいらいらする。過食が止まらない。

二十七日。木曜。この日は自分のテストが一科目もなく、三時間続けて監督。最後のほう頭がおかしくなりそうだった。内職禁止座るの禁止で生徒より教員のほうが苦痛大きいんですけど。きちがいか？わけわかんねえ。ばっかなんじゃねーの。ちよつとカンニングしたぐらいでなんにも変らねえよ。どうせテストの結果がどうあるうがみんな三年後には嘘八百を並べ立てた推薦書をおでこに張り付けて馬鹿田大学にご進学召されるんだろ。糞袋みたいな野郎共のためにあたしが脚をむくませなきゃならないとかまじわけわからん隙を見て蛭田にKGカードはつくれないと言い逃げしてきた。のに、今日うつかりやつより早く上がってしまった。忙しいからとか言い訳過ぎプギャー。ちなみに今日は私以外の二年女性陣がなんかやたらと盛り上がった。なんか変なこと考えてしまう。あの組み合わせじゃ百合ってかレズってかんじだけど。赤城の家族風呂のト

ラウマがよみがえる。親だって彼氏だってだめだったというのに、そう親しくもない同性のたるんだ裸とか絶対かわりあいになりたくないでござる。ああもうあたし疲れてる。

ヤオコーでイチゴロールケーキが半額になっているのを見て食べなくなつて、そうしたら必然的に吐かなきゃいけないから雪見パックとビーノバターしょうゆ味と麦とホップ黒と一緒に過食して吐いた。おいしかった夕飯の肉じゃがも出ちゃって気がして自己嫌悪。鼻の下のニキビ破っちゃったし。肌がぼろぼろで死にたい。夜中の二時までハルヒのSSを読んできました。これのせいで就活こけたつてのに。くそやっぱり長古最高。キヨンは死ぬ。もしくはハルヒと幸せになれ。長門とかみくるは違うから。恋愛感情じゃないと思う。

二十八日。またまた主任と一緒に中学校訪問。また自転車通勤推奨される。だーかーらー。主任に至つては原付き勧められる始末。だーかーらー。免許取る時間どこにあるの、バイク買うお金、維持するお金どこにあるの、ガソリン？軽油？買う金どこにあるの。特に維持費！！今の給料でそんなこと言われても無理です！過食が完全に治つたつて赤字だよ。

そんなにおなかなすいてなかったのにクリスティー又開いてるの見たら食べたくなくてクレープ食べてしまった。ウニクスで食べた。子蠅がとんでいて嫌だった。家の、自分の部屋で誰にも見られないでこつそり食べたい。一人でないとものを食べた気がしない。それに最近ほんとうに蠅が多くていやだ。学校は蠅だらけ。給湯室のどこかに蛆がわいているんじゃないか。ダリオ・アルジエントを連れてくるべき。まあそのあとまた雪見追加して吐いた。家でだから結構時間たつちゃって吸収されてる気がしたけどまあいいかと思つた。明日はしないで済むといいな。

夕飯は栗ごはんでかぶの味噌汁で豆腐でザ サイでブロッコリーだった。おばあちゃんが長引きそうつてことだった。食後にお父さ

んが入れてくれたコーヒーがおいしかった。あさみちゃんの男の趣味が悪い話で盛り上がった。三次元で「私」敬語男はいやだな。というか親に紹介したくないっていうのは明らかにおかしいだろ。セフレにされてんじゃないの。男から見たら5歳も年上の女とかおばさんだよ。あんなにかわいいのにあさみちゃん趣味悪い。あとゆみちゃんちよつとわがまま過ぎて引いた。おばちゃんに掃除洗濯旦那の食事上の子供の世話買物させて自分はおっぱいだけあげてたいとかなんなんだ。子供産んでるのに子供みたいだし、デリケートつか強迫観念症じゃないの。すごく意外だ。でも変な人がいると自分絶対的にまともになれる気がしてちよつと落ち着く。

・・・親戚だから落ち着いてる場合じゃないんだけどね。火の粉はこつちにも飛ぶ

十月二十九日（後書き）

a 1 [z [0 @ p 3 q a 1 ¥ ; i g e a 1 z

十一月一日

十月三十一日。テスト返しばかりの日。楽っちゃ楽だけどやつらの勉強しない癖に点数にこだわるのがいらつく。

テストの点数と評定をいれた表がみつからなくなってパニックを起こした。ひさびさに号泣。このことが大きすぎて何があった日なのかいまいち覚えていない。一時過ぎまで眠れなかった割に翌日スバツと目が覚めた。

十一月一日。音読中心の授業に移行したいけど英語？のノリが悪すぎる。挫折したい。つらい。件の表は探したら考査袋の中で未使用のテストとごっちゃになっていた。ほっとした。

阿部に2Gの英語を授業外に面倒見ろって遠まわしに圧力掛けられた。生徒だつて特選特進でペーパーの教員充てられたらいらつくだろうに、こつちだつてひまじゃないつーのに勘弁してくれ。あのクラス阿部の増殖したようなのばかりで怖い。リア充臭がする。陰で笑われてるような。はした金でこんな苦労したくない。一之瀬には模試対策しろとか無茶振り。無理だから。授業時間数から考えて無理だから。おまえらみたいに土日休めるならウィークデイに頑張ったつていいけど無理だから。そんなむちゃくちゃなのに帰り際明日の朝リスニングの用意してないことに気がついてしまって大後悔。言わなきゃよかった。あれ誰も聞いてなくてテスト前なんか無理やりやらされたけどだれも聞いてなくてテスト勉強されてたつていう。あれ準備に三十分はかかるんですけど。ほんと長谷川勘弁してよ。現実見ろつてあいつら英語なんか興味ないし一生縁のない生活送るから心配しなくていいつて。ほんとうちに来ちゃうような生徒にいったい何もとめてるのどいつもこいつも。身の丈に合わない学校に放り込んだら放り込まれたほうは迷惑千万だつて。なんであんな面接とか書類とか面倒見まくつてんだろ。ボーナスに関係あつたりするの？下らん人間は下らん末路をたどればいいよ。本気で

あいつら助ける意味がわからない。あたしより糞な人間があんなに
いるなんていままでも知らなかったよ。あー

十一月四日

十一月二日。リスニングの問題を4級から、CDと模範解答を3級から持つてきてしまった。あとからわらわらねちねちいるんな人から言われた。ろくに聞きもしないで、水曜日教室に入るとリスニングの問題用紙ごろごろ転がってるくせに（紙にごろごろは変か）ふざけんなんて思いつつ全員に訂正版をお配りした。みちやいない癖に。止めればいいんだこんなこと。まるで無駄。しかし私ぱつと開いて表紙も見ずにプリントしちゃうとかうかつすぎるよ。

授業は相変わらずジャングル。今や1Cで一番の問題児となった矢作の馬鹿が猿が原住民といった具合の雄たけびを上げまくっている。しかし、まあなにがそんなに彼のテンションを上げるのか。鈴木さやかもすぐむくれるし扱いづらい。ブスのくせにいったい何を勘違いしてるんだか。香取も気分屋だし、西村高木黒須あたりは本当になにひとつこちらの話を聞いていない。後藤の頭も空っぽ。前田はなんだか不気味だし、関根と寺田はいつ見ても寝てるし。あれあたしずいぶんよく見てるもんだな。四月五月は名前と顔もろくに一致しなかったのに。

放課後石部第2学年主任と長谷川教務主任の主任コンビと面接？のようなものがあつた。つくづく私って喋れないどあほだ。中身が実はアルコールでゆだってるのかもしいない。ノーコメント。つつくほどいつまでもほこりが出る全身です。

佐藤先生の誕生祝いをしようといわれていたため& amp; ;一之瀬先生に模試対策を投げられたためいつまでたっても帰れない。9時近くなって、やっぱり帰っていいのかしらと思つたらタイミング悪く福居先生が気づいて爆弾ハンバーグに行く羽目になってしまった。せめてココスならよかつたのがつつり肉メニューしかなくて苦痛だった。いつまでも喋っていて吐きにもいけないし。ここ1ヶ月くらいでせつかく減つた体重が2キロ増えて55キロに逆戻りし

てしまった。顔が丸いと思っただらやっぱりって嫌な気分が止まらない。

十一月三日。部活。サボろうと思っただのにバカ正直にきてしまった。昨日福居先生にあたしみたいな立場なら部活は鈴木先生にお任せしちやえばいいのについていわれたけど、任せてもいいのかな。あの人は何を考えているのか分からない。少なくともあたしはバドミントン大っきらいということだけははっきりしている。

帰りバンバンに行ってみようと思っただらフリータイムは埋まってしまうていた。今度予約して来ますとその場は帰った。家に帰る前ヤオコーでいろいろつめこみ、家でも詰め込み、吐いた。物足りなくて、ココスのバイキングに行けばよかったって後悔してる。あと今日ノリで小淵君に連絡しちゃって日曜会えるって言っちゃったけど今からだるくて仕方がない。お金もないし、銀座にあのひと行っても面白くないな。でもこころで機嫌とつとかなきゃな気もするし…嫌いなわけじゃないけど会いたくない、一人になりたい。そのあと五日に行く店を決めて予約を取った。ロックアップか竹取御殿に行きたかったけれど土曜だから無理だったし、俺の台所の超お得プランも3人だから無理だった。なっちゃんはどうとうひろちゃんまで切ったらしい。そういえばりっちゃんからメールの返信がない。もういいや。結局人ってだれも当てにならない。今のあたしは実質友達0だ。こういうこともあって小淵君をないがしろにするのは怖い。でもどうしよう。でも。

十一月四日。忙しすぎて疲れた。模試対策が何していいのか本当に分からず、拳句着てなかった生徒が問題ほしいとか言ってきて、一之瀬先生が勝手に申し出なかった生徒にも配って、足りないとかわけわからんことを言い出したりしなければまあまあ平穏な1日だった。いや、あのね、なんでくれといっけない生徒にまでわざわざ紙無駄にしてインク代かけて模試の過去問あげなきゃいけないんですか。ていうか、対策して何が起ると思ってるんですか、なにがさせたいんですか。分かりません。

ああもう一つあった。昼休み赤点の再考査を学年でやるのか教科でやるのか分からず、またとりまとめをすべきなのかすべきでないのかも分からず、冷や汗だらだら流す数分間もあった。あたしの頭越しにいるんな人が会話をしているあたしはかかしかなくなってきた気分だった。やっぱりこの頭の中高野豆腐でもつまってるんじゃないだろうか。始めとか時間割ってイメージからなぜか阿部先生に声かけちゃったし。あたしこの人の前でみじめが格好さらすの好きなんだろうか。何回似たようなへま踏めば気が済むのか。あががが音楽室掃除も放課後講習もあるしわけがわからない。中野先生にはつぴがほしいといわれて走り回ったり加藤さんの面接練習に付き合ったり再考査のテスト問題を打ち直したら印刷したりしているうちに8時になって家に帰った。

加藤さんは学生時代に会っていたら友達になれたのかな。と不思議な感情を抱かせる生徒さんだ。まあ多分そうはならなかったけど。教師と生徒で、ついでにいまのこの距離だから上手くいつているんだ多分。険悪ではないと思うよ。ちょっと心配な出来栄だったの頑張ってほしい。

カボチャのスープがおいしかった。ギリシヤが大変らしいけどいまいちわからない。久々にテレビを見ながら、私って本当に社会の底辺でうごめいてるんだなという気がした。国とか、多額のお金とか、まるで縁のない話みたい。

十一月四日。

十一月五日

十一月五日。土曜日。今日学校説明会と勘違いしていた。そりや明日だよ。眼鏡紛失するし本当つあほか私は。今日はいつも以上に気分が乗らなくて、1Cの授業でリアルに「絞め殺すぞ」発言してしまった。気が緩みすぎ。週明けから気をつけなくちゃ。

後期中間考査？の時間割と三年生の後期期末考査の時間割を作らなければいけない。阿部先生がこの前より丁寧に教えてくれている気がする。何があつたんだろうガクブル。どうせ来年はいないんだしやさしくしてあげるかってことなんだろうか。

夜大宮でひろちゃんといずみと飲みなので部活なんかでていらないぜ！ってことで三時ごろ学校を出た。志久と大宮とで眼鏡の落とし物の有無を聞いてみたけれど見つからなかった。ニューシヤトルの車内かホーム以外で落としては絶対ないのになんでみつからないんだ。

「誰かが拾ってしまうと見つからないんですよね」

「誰かが持つて行っちゃうってことですか？」

「ええ・・・まあそういうことです」

最初からそう言えよ拾ってくれるってのはちゃんと届けてくれるってことだろ。あんたの行ったのは盗みってケースだろ。いるのかそんなやつ。他人の眼鏡なんか拾って何に使う気なんだよ。頼むから返してくれ。あんたには価値のないものでもあたしには大事なもののなんだよ。ふざけんな拾ったやつ死ね。

約束の時間までかなり時間があつたので服を見て回ったけれどもまいち琴線に触れるものがない。何をみてもこの質の割に高いとは思えない。コスメのほうが見えていて楽しかった。でも服よりコスメより私はこの頭蓋骨を小さくしたい。本当に頭がでかすぎて死にたくなる。りっちゃんから結局いつまでたっても返信がない。結局あたしはあの子の暇つぶしの道具でしかなかったらしい。あたしも

いつまでニキビ面なんだとか金を回す順番違うだろとか、それ恋愛
っていうかやらせないから捨てられただけだよねとか酷いこと一杯
思ってたからそれが表面に出てたのかも。ほんと大学4年とおして
なんにも残らなかった。そもそも高校で友達作れなかったのがもう
すでに詰んでるわ。歩きまわっている間もしかしてドタキャンされ
るんじゃないかってずっとびくびくしてた。

カインドハウスは料理がしょぼくて微妙だった。やけになって酒
をがばがば飲んだ。甘いのはっかりで気持ち悪いしカロリーが心配。
物足りなくて帰り150円セール中のマックポテトと120円に
いつの間にか値上がりしたマックポークを詰めて家で吐いた。それ
からコーラックを一粒。

ちゃんとできてたかな。退屈とか下品とか思われていないといい
な。

十一月六日

六日。日曜日。朝三時ごろ猛烈な気持ち悪さで目を覚ましてトイレで異常に酸っぱい液をほんのちよつとだけ吐いて喉と歯がきしきしになった。下剤のせいだと思う。

今日はデートをすっぽかして一人近所のカラオケに。生徒いるんじゃないねえのという不安とドリンクバーとトイレが遠いのと、ドリンクバーのコップが一つしか使えずしかも水が臭いという点を除けば日曜八時間八百円はかなり魅力だ。バイキングで終日吐きまくっているよりは健康的だし。

フリップサイドばかり歌いまくって録音もして楽しんできた。あ、行く前にはなまるのうどんをひさびさに食べておいしかった。

帰ってから今日はどうだったと聞かれてどもってしまった。探りを入れているわけではないだろうがこっちに後ろめたいことがあるとどうにも。というか感づかれた気もするし。つけ麺がおいしかった。

あー仕事いやだ。

十一月七日

これを書いているのは八日朝。また電気をつけたまま寝オチしてしまった。いやだいやだ。下に降りるのがうざい。また鬼の首をとったみたいと言われるんだから。

月曜日からえらく忙しかった。まだ時間割も組んでないし入力も終わってないのに帰っちゃった。でもそれでも八時過ぎた。明日というか今日に至っては明日の誰も聞いてないリスニング準備もあるから本当にうざい。おなががすいて仕方ないのも肌がぼろぼろなのもだんだんじわじわ太ってきてるのも全部うざい。授業はわりとすらすすんだのがまだ救いか。矢作がいなかったからだる思う。矢作も浦江もずっと来なければいいのに。早く学校やめる。いたって腐敗臭まきちらすだけで何の役にもたたない。

1Cの田村君がバドミントン部にきた。何たくらんでるのか。

放課後に再考査やったんだけどうざすぎた。馬鹿のくせに自信満々ってひねり殺したくなる。しかも不細工とか二重苦なのになんだほんといつら

夕飯が鶏肉と大根の煮物と鮭の焼いたのと青菜と味噌汁で豪勢だった。

十一月十九日

登用試験に落ちたのがショック過ぎて息するだけで精いっぱいだった。

今日は二年生の進路別説明会。まだ十一月だっというのに石造りの後者はからだの芯から震えが来るくらい寒い。宏美は朝帰りのあととんぼ返りでバイト。お母さんは愛知へ紅葉を見るツアー旅行に行っただけど雨みたい。こちらでもざばざば振ってた。

一時二十分の定時になり次第退社してお父さんに車で迎えに来てもらった。おおぎやのラーメンを食べようとしたら二時近いつて言うのに込み合つててしかもカウンターに座った七八人がうんざりした様子で水を飲んでるのでやな予感がして菖蒲の肉うどんに変更した。肉うどんは売り切れでも肉うどんを食べた。おいしかったけれどアツアツの汁のある麺類を期待していたのでなんだかあてが外れたような気がしておかしかった。お父さんと教員の仕事についてずいぶん長く話した。お父さんと同じ仕事をしているなんて不思議な気がする。家でご飯を食べていたりするときまずかつたりするのに車の助手席だといくらでも話していられた。帰りたくなかったのでモラ ジュに連れて行ってもらおうとしたらなぜか不動岡高校のほうまで行ってしまつて羽生のイオンモールに来た。ちよつと前彼に連れてこられていろいろ盛大に引いた記憶が生々しくやな感じがした。しかも別行動だった。まあいいんだけど。

問題は正体不明のむかむかに耐えきれずミスド二つとシュークリームと爽のいちごミルクを買ってトイレで吐いてしまったことだ。ついでに過食嘔吐用にパンと低脂肪乳までキープしている。せつかくおいしくご飯を食べたのにとがっかりした。

イオンでさくでサーモンを買ひ、松前漬けを買ひ、マヨであえたモノばかりのサラダを買ひ、インスタントの味噌汁と余っていたご飯で夕ご飯。おいしかった。食後にコーヒーも飲んだ。今この前こ

っそり持ち込んだアーモンドをかじりながら久々の日記を書いている。とりあえず、あと一年頑張る。スチュワードとかアナウンサーとか、そりゃなればよかったけど、なれなかったよ。やつぱり。そろそろあたしも本物の自分を認めてあげてよくわからない幻想みたいなものをあきらめなきゃいけない年だ。それは可能性を手放すということとは違う。はなから「可能性」はなかったんだ。成長つていうのは上に向かって伸びていくものじゃなくて個人の中に埋まっている資質を発掘していく作業なんだ。種のない芽は出るはずがない。

一時つぶれた声は最近少しずつ回復してきた。早くまたカラオケに行きたい。パソコンの音源を聞いていたらそんな気がまたむくむくしてきた。漫画もまた書きたい。英語の勉強もしたい。本も読みたい。旅行にも行きたいし、友達作りたいし、両親に親孝行もしたい。

またいろいろ埋まってると思う。すみからすみまで掘り返してみても、それでもなんにもいいものが見つからなかったら、全部をやめてしまうのはそれからいい。

十一月二十一日

十一月二十日。長くて長くて気が狂いそうな一日だった。朝松前漬けとごはんを赤だし味噌汁を食べて、後はひたすら個別相談案内入力がないからいいけど相談してるほうがましだつて長さで単調さ。

バドの植田くんが補助生徒で気が楽だった。植田君はどうやら阿部先生のお気に入りらしい。見慣れてて気がつかなかったけれど彼はうちの学校の中では結構優秀なのだ。確かに人前である程度筋の通った話ができるし、オドオドしないし、特選クラスだし。宿題忘れたり、ちよつと空気が読めないところがあるけど育てればそれなりに使えそうだ。私がなかなかできなかった個別相談受付の仕組みも簡単に理解したし、嫌な顔せずによく働く。いい子だなと改めて思った。池田君も誘導をして田村君もバス係と誘導をした。部長は生徒会運動部長だし、山崎君は会長になるらしいし、バドミントン優秀だな。バドはボロボロなのに。鈴木先生の心中やいかに。交代制でお昼御飯だと時間を気にしなきゃいけないのがいやだなあと思った。四時半から五時半が本当に長くて死ぬかと思った。

生徒カルテの検索が間違えていた。探す項目にカーソルを合わせながら検索、名字と名前の間にはスペースを入れる、など。入力は全くのノータッチだし、怖い。というか紙データとパソコンデータとあるのって二重手間じゃない？面談する先生がノート持ち込みじゃだめなの？予算がないの？短大つぶせばいいのに。こっちの黒があっちの赤につぶされてるっていらいらする。あっちのほう勤務時間も少なくて講師の給料高いのに。こっちは20万にもならない手取りであほみたいに働かされてるのに。校長の最後の一言には心底いらつときた。なにが「残り少ない休日をゆつくり過ごしてください」だ。今日は休日じゃねえよあたまおかしいんじゃないか。福居先生が送ってくれたけど、また口先のつまらない嘘をついてしまった。うそをつくのが久々だからなんだか嫌な気分になった。カフ

エ出入りしてた頃はマヒしてたのがつくづくわかる。真人間って爽快だけどしんどい。

ビーフシチューと赤ワインと大量のアーモンドとクリームチーズでおなかがいっぱい。寝オチして一時半に目覚めてまた寝なおした。十一月二十一日。寒い寒い。朝もたついて慌てたせいで、アツセンブリと生徒総会なのにジャケット忘れた。昨日も仕事だったのに今日も明日も明後日もし明後日もそのつぎもそのつぎもそのつぎもそのつぎも仕事とか本当にわけわからない。死ねばいいのに。生徒うざいし。アフリカの、農業用の種もみ食べちゃう土人相手にしてる気分だよ。馬鹿って適度ならかわいいけど過度だと殺意わくよね。そういうわけで寒さに凍えながら生徒総会を聞いた。山崎君はい子だけど今一つぱつとしない。多分喋りが下手なせいだと思う。演技指導入れたい。ってかあたしじゃ役者が不足だから阿部先生あたりが指導してくれたらいいと思う。

そのあと海外の反省会があつて校長が非常にうざかった。なんか冗談抜きにおつむがどこかへ飛んで行つてみたい。なんでこんな爺が学校作れるくらい土地と資金もてたのか不思議。当時の責任者出てこいよ。おまえの子孫あたまいかれてるぞ。分数の足し算のできなない人間が世界に羽ばたくと思つてるなら今すぐ脳外科にかかべき。もはや一刻の猶予も許されない。教科会もあつただけど、なんと校長先生様教科会を英語でやるようにとお達し。これにはさすがの中野先生も苦笑い。ダブリンでもさぞ苦労されたらと思う。長谷川先生は苦い顔。他は笑うほがなく、「え、ハローミスターナカノとかやるわけ？」そんなことよりLL教室とか音声教材揃えさせてください。日本人が日本人の英語聞いててもなんにもならないよ？ALTも一人しかいないしどうやらそいつ国に帰るし、こつちの勉強時間ごとくくだらない飲み会やら説明会やらでこそげとつといてどれだけこつちに重たい期待掛けるのさ。そんなに英語話せる人材がほしかったらアメリカかイギリスで探してくれば？みんな英語喋れるよ？直接交渉して月16万くらいで死ぬほど働く

英語教師探してこいよ。だれも止めないから。そのまま他国で行方
知れずになってください。あなたの死は3年は隠しておくからさ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6157u/>

樋口葉子の日常

2011年11月22日02時52分発行